準備編

基本撮影編

応用撮影編

カスタム設定

付録

J 使用説明書

ご使用前によくお読みください。

目次

お買い上げありがとうございます。ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

目次

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくため、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発熱注意)

⚠ 警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性(＋/－)を逆に入れないでください。**
- **表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。**
- **新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。**
- **万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。**

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

⚠ 警告

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

ファインダーを通して、特に取り外したレンズのみで太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

⚠ 警告

カメラを濡らしたり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

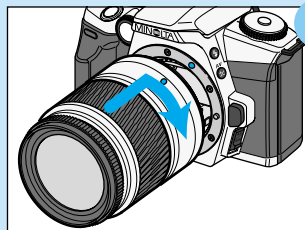
万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。
使用を続けると感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠ 注意

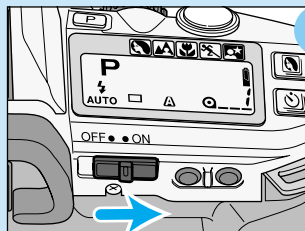
直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

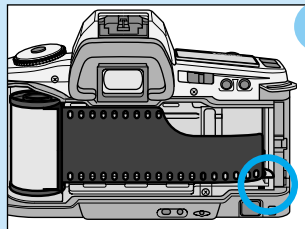
車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

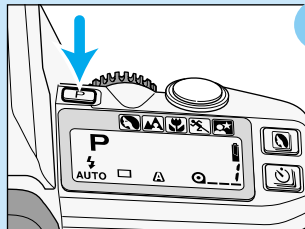
発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

撮影早分かり(詳しくは本文をご覧ください)

1 レンズを取り付けます。

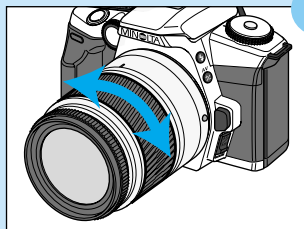
レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

17ページ

2 電源を入れます。

メインスイッチをON にします。
電池はすでにセットされています。

3 フィルムを入れます。

フィルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。 21ページ

4 おまかせPモード(全自動)にします。

P (プログラムセットボタン)を押します。

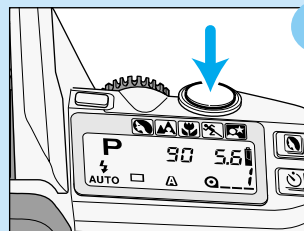
30ページ

5 カメラを構え構図を決めます。

ズームリングを回して写したいものの大きさを決めます(ズームレンズ使用の場合)。 31ページ

6 ピントを合わせます。

[ ](ワイドフォーカスフレーム)に被写体を入れて、シャッターボタンを半押しします。 32ページ

ピントが合うとピピッと電子音が鳴ります(電子音設定ONの場合)。

26ページ

7 撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

各部名称とはたらき

＊印のついたところは、直接手で触れないでください。
( )内は参照ページです。

カメラボディ

内蔵フラッシュ＊
ここからフラッシュが光ります。(35)

プログラムセットボタン
おまかせPモード(全自動)で撮影します。(30)

フラッシュモードボタン
フラッシュの使い方を選びます。(37)

露出補正ボタン
露出の補正を行います。(72)
Mモード時に絞り値を変えます。(64)

ファンクションボタン
ファンクションダイヤルの機能を設定するのに使います。

ファンクションダイヤル
様々な機能が使えます。

シャッターボタン
シャッターを切ります。

セルフタイマーランプ／リモコン受信部
ルフタイマー時に撮影のイミングをランプでお知せします。(47)
モコン(別売)の信号を受信ます。(48)

ストラップ取り付け部
付属のストラップを取り付けます。(15)

ダイヤル
様々な機能を設定します。

レンズ取り外しボタン
レンズを取り外す時に押します。(17)

AFレンズ信号接点＊

フォーカスモードレバー
オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えます。(85)

ミラー＊

マウント

オートロックアクセサリーシュー
プログラムフラッシュを取り付けます。

メインスイッチ
電源を入れます。

撮影シーン選択ボタン
撮影シーンを選ぶとカメラが最適な設定をします。(39〜45)

ファインダー＊
ここから覗いて撮影する範囲を決め、ピントを合わせます。

ボディ表示部
(12)

巻き上げモードボタン
以下のモードを選びます。
セルフタイマー(47)
リモコン(48)
連続撮影(51)

ストラップ取り付け部
付属のストラップを取り付けます。(15)

アイピースカップ

リモートレリーズターミナル
別売のリモートコードを取り付けます。(117)

フィルム確認窓
フィルムが入っているかを確認します。

スポットAEロックボタン
測光した露出値を固定するために使います。(69)

日付・時刻写し込みボタン
日付・時刻を写し込みます。(52)

スポットAFロックボタン
ピントを固定します。(79)

セレクト(修正位置選択)ボタン
日付・時刻の数値の設定や並び方を変えます。(53)

裏ぶたロック確認窓
裏ぶたがロックされているかを確認します。(23)

途中巻き戻しボタン
フィルムの途中で巻き戻します。(25)

裏ぶた開放ボタン
フィルムを出し入れするために裏ぶたを開けます。(21)

電池室ふた
電池を入れふたを閉めます。(19)

三脚ねじ穴
三脚を取り付けます。

電池室
電池を入れます。(19)

ボディ表示部

※ここではすべての表示を点灯した状態で説明しています。

ファインダー表示部

ワイドフォーカスフレーム
カメラがワイドフォーカス内にあるセンサーを使って自動でピントを合わせます。(32)

スポットフォーカスフレーム
厳密にピントを合わせたい時に中心のセンサーを使います。(79)

スポット測光サークル
測光をこのサークル内だけで行います。(69)

フラッシュ充電完了／調光確認表示
フラッシュの充電が完了したことを示します。(35)
フラッシュの光が被写体に届いたかを確認します。(35)

フォーカス位置表示
選択されているフォーカスフレームやピントの合っているセンサーの位置を示します。(78)

シャッター速度表示
シャッター速度の数値を示します。

露出補正表示
露出補正の状態を示します。(65/70)

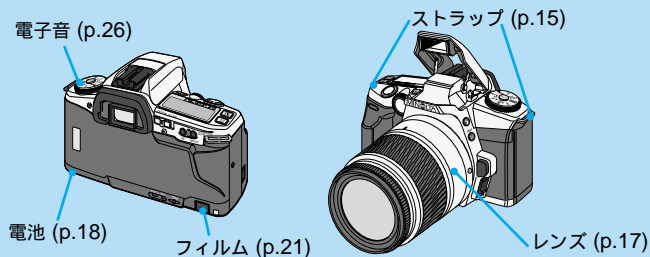
絞り値／露出補正値表示
絞りや露出補正の数値を示します。

ワイヤレスフラッシュ表示
プログラムフラッシュをカメラから取り外して発光させ撮影します。(95)

フォーカス表示
ピントが合っているかを示します。(32)

スポットAEロック表示
スポット測光サークル内で測光した値で露出値が固定されていることを示します。(70)

準備編

この章では撮影前のカメラの準備について説明します。

本文中のマークについて

撮影に不都合の生じる恐れのある注意事項などが書かれています。

カメラの基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

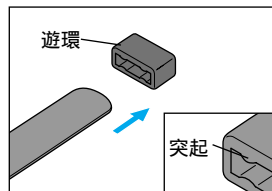
CUST カスタム設定でカメラをお好みの状態に変えることのできる事項が書かれています。

このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

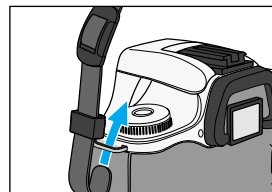
ストラップを取り付ける

付属のストラップを取り付けると。持ち運びに便利です。また、カメラの落下などを防ぐことができます。以下の手順にしたがってストラップをカメラに取り付けてください。

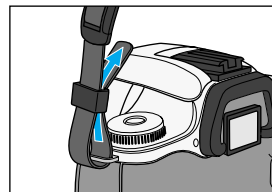
1

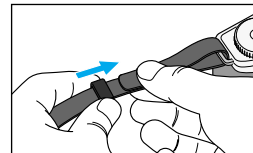
ストラップを遊環に通します。取付方向は右図のように4ヶ所の突起のある面からストラップの先端を差し込みます。

2

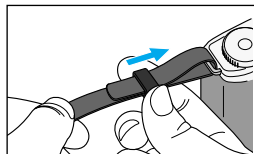
ストラップの先端をストラップ取付部の下から通します。

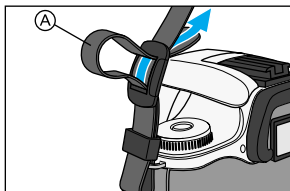
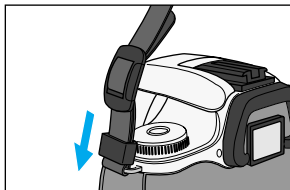
● アイピースキャップの付いている側を、ファンクションダイヤル側に取り付けて下さい。

3

ストラップの先端を遊環に通します。

● 遊環に通す際、硬くて通しにくい場合は以下の方法で通してください。

① **先端部分の近くを指で固定し、遊環を移動させて先端部を通します。**

（先端部分がほぼ貫通した状態まで）

次ページに続く

② 紐部分を持って、遊環を矢印方向に移動させます。

4 ストラップの止め具の内側を通して固定します。

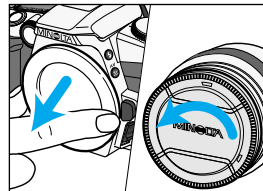
● Ⓐ の部分を少し大きめに引き出した方が通しやすくなります。

5 遊環を下まで押し付けてストラップを固定（ズリ落ちないように）します。

※反対側も同様に取り付けてください。

レンズ

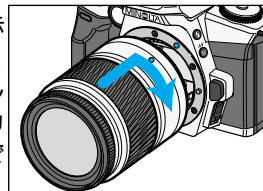
このカメラは撮影シーンに応じてレンズが交換できます。すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなどはご使用になれません。

取り付ける

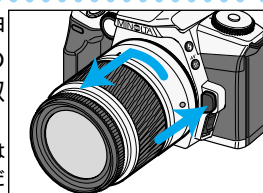
1 カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

● カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷つけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気をつけてください。

2 レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み、レンズを軽くカメラに押し当てながら、時計方向にカチッとロックがかかるまでゆっくり回します。

● レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

● レンズを斜めに差し込まないようにしてください。

取り外す

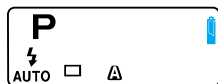
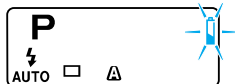
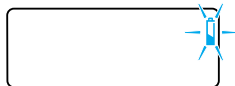
レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します。

● 取り外した後カメラとレンズはキャップを付けて保管してください。

◆ 日光の強い屋外では、画角外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用(p.115)をおすすめします。

電池

このカメラは3Vリチウム電池CR2を2個使用します。お買い上げ時にすでに電池は入っています。

電池容量を確認する

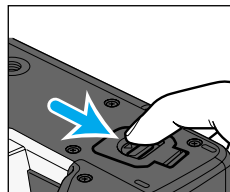
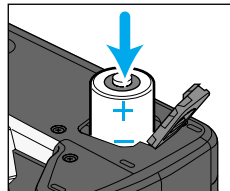
メインスイッチをONにしていると、電池の容量が常にボディ表示部に表示されます。

● 点灯
電池容量は十分です。

● 点滅
電池を交換することをおすすめします(この状態でも撮影はできます)。

● のみ点滅(他の表示はすべて消灯)
新しい電池と交換してください(シャッターは切れません)。

◆ メインスイッチをONにしても何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。
◆ ご購入時には新品電池を入れていますが、電池の特性や保管状況により一時的に が点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。ご購入時の電池は出荷時に入れたものなので、通常購入される電池と比べて消耗が早くなることがあります。

電池を交換する

電池の容量が少ないときは、以下の操作で新しい電池と交換します。日付・時刻の写し込み撮影(p.52)を行っているときは、次ページを読んでから電池の交換を行ってください。

1 電池室ふたの溝を矢印の方向へ引き、ふたを開けます。

● 電池交換する前に、メインスイッチを操作すると日付・時刻を記憶します。

2 電池室ふたの＋／－表示にしたがって電池を入れます。

3 ふたを閉めます。

◆ 電池室ふたを開けたまま、ふたを下にしてカメラを置かないでください。破損の原因となります。

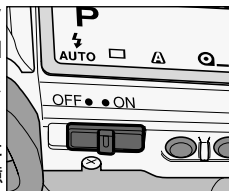
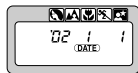
◆ 電池の取り扱いについては「取り扱い上の注意」(p.122)をご覧ください。

日付・時刻の写し込み撮影中に電池交換するとき

電池を電池室から抜くと、カメラ内の時計が止まります。電池を入れ直した後は日付・時刻を修正してください。また、下の手順でセレクトボタンを押さずに撮影すると、日付・時刻は写し込まれません。

メインスイッチ

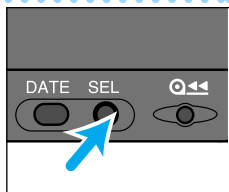
1 電池を抜く前に、メインスイッチをいったんONにし、その後OFFにします。

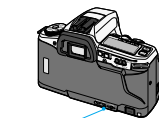
- メインスイッチを操作した日付・時刻がカメラに記憶されます。
- のみが点滅しているときは、日付・時刻をカメラに記憶させることはできません。

2 電池を交換し、メインスイッチをONにすると次のいずれかがボディ表示部に点滅します。

すばやく電池を入れ直した時は通常の撮影状態の表示がされることがあります。この場合は日付・時刻を修正する必要はありません。そのまま撮影しても日付・時刻は写し込まれます。

通常の撮影状態

セレクトボタン

3 セレクトボタンを押します。

- 最後にメインスイッチを操作した日付・時刻が表示されます。

4 正しい日付・時刻に修正します。

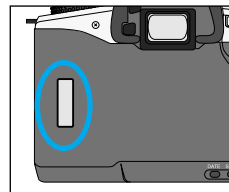
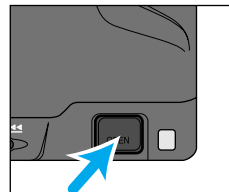
- 日付・時刻の修正の仕方については53ページを参照してください。

フィルム

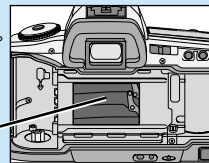
DXコード付フィルムを使用すると、フィルム感度が自動的に設定されます。

DXコード付きフィルム

フィルムを入れる

撮影の前にフィルムを入れます。フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

1 フィルム確認窓で、フィルムが入っていないことを確認します。

2 裏ぶた開放ボタンを押し、裏ぶたを開けます。

裏ぶた開放ボタン

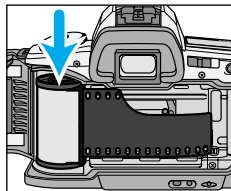
◆ **シャッター幕は非常に薄く精巧に作られていますので、絶対に手などを触れないでください。故障の原因となります。お手入れの際に、シャッター幕へブロアーなどでエアーを直接吹きかけないでください。また、フィルムを装填、交換する際、シャッター幕に指やフィルム先端などで触れないでください。シャッター幕の破損・変形の恐れがあります。**

シャッター幕

次ページに続く

フィルムを入れる（つづき）

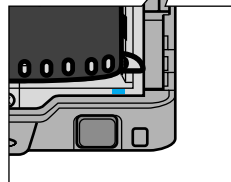
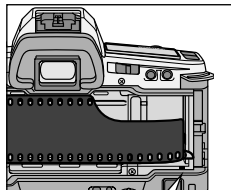
3

図のようにフィルムを入れます。

フィルムが浮き上がらないようにパトローネ(フィルム容器)を押さえてください。

4

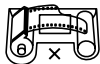
フィルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます。

● フィルムの先端を入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎた時は、パトローネの中に戻してください。

● 先端を入れ過ぎると、フィルムの巻き上げ時にトラブルが発生する場合があります。また、規定枚数内の撮影であっても日付・時刻が正しく写し込まれない場合があります。

5

裏ぶたを閉じます。

● フィルムが自動的に巻き上げられ、セーフティロックがかかります。

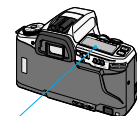
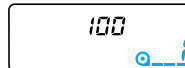
● 裏ぶたを閉じる時に、ストラップをはさまないように気を付けてください。

フィルムを入れた時のボディ表示部

ボディ表示部

正しく巻き上げられた時

メインスイッチON

● ⊙__1 が表示されます。

● フィルム感度が5秒間表示されます。

メインスイッチOFF

● ⊙__1 が5秒間表示されます。

● フィルム感度が5秒間表示されます。

正しく巻き上げられなかった時

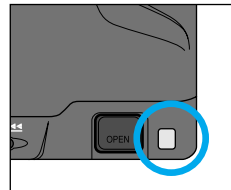
● _0 が点滅します。フィルムをもう一度入れ直してください。

セーフティロック

このカメラにフィルムを入れると、裏ぶたがロックされ開きません。不用意に裏ぶたを開けてフィルムを感光させ、撮影済みの写真が台無しになるなどの失敗を防ぐためです。裏ぶたがロックされると、裏ぶたロック確認窓が赤くなります。

裏ぶたロック確認窓

● 確認窓が赤い時は裏ぶたを開けることができません。

● フィルムを入れ替えたい場合は、必ず巻き戻してから裏ぶた開放ボタンを押してください。(p.25)

◆ **ポラロイドインスタントリバーサルフィルムや赤外線フィルムは使用できません。**

◆ **DXコードが付いていないフィルムを入れた場合、フィルム感度は直前に使用されていたフィルムの感度になります。フィルム感度は必要に応じて変更してお使いください(p.77)。**

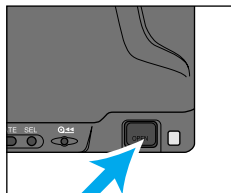
◆ **36枚撮り以上のフィルム（72枚撮りや手巻きフィルム等）を使用された場合、40コマ目を撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。このカメラで撮影できる枚数は40コマまでです。**

フィルムを取り出す

撮影したフィルムは現像するため、カメラから取り出します。

1

最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

● フィルムの巻き戻しが終わるとカウンターが 0 になり、 が点滅します。

● 赤が消えているのを確認してください。

2

裏ぶた開放ボタンを押し、裏ぶたを開けます。

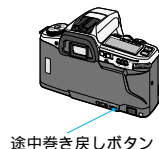
3

フィルムを取り出します。

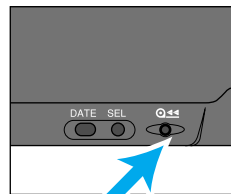
◆ 規定枚数以上撮影した場合、最後のコマは現像処理でカットされてしまうことがあります。
◆ フィルムの最後のコマでは正しく日付や時刻の写し込みがされない場合があります。
◆ 巻き戻し中にレンズのフォーカスリングを回さないでください。回してしまった場合は、巻き戻し終了後、メインスイッチを操作(ON→OFFまたはOFF→ON)してください。

CUST
● 最後のコマを撮影しても自動的に巻き戻しが始まらないように、カメラの設定を変えることもできます(p.106)。
● 巻き戻した後のフィルムの先端が残るように(パトローネ内に巻き込まれてしまわないように)、カメラの設定を変えることもできます(p.107)。

フィルムを途中で取り出す

フィルムを最後のコマまで撮りきらずに途中で取り出したいときは、巻き戻します。

1

途中巻き戻しボタンを軽く押します。

● 巻き戻しが始まります。

2

巻き戻しが終わったらフィルムを取り出します。

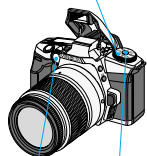
◆ ボールペンなどの先の丸いもので軽く押します。先のとがったもので押すと、故障の原因になります。

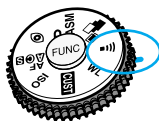
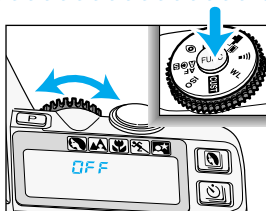
■))) 電子音について

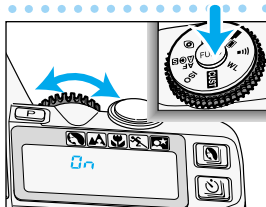
電子音でカメラの作動を確認することができます。ご購入時はONに設定されています。

確認することができるカメラの作動

作動	電子音
オートフォーカスでピントが合い固定された時	(ピピッ)
セルフタイマー作動中	(ピーピーピー…ピピピピー)
IRリモコンRC-3(2S)使用時	(ピピピピー)
IRリモコンRC-3(●)使用時	(ピッ)

※IRリモコンRC-3は別売です。

電子音をOFFにする

1 ファンクションダイヤルを ■))) の位置まで回します。

2 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に OFF を表示させます。

電子音をONにする

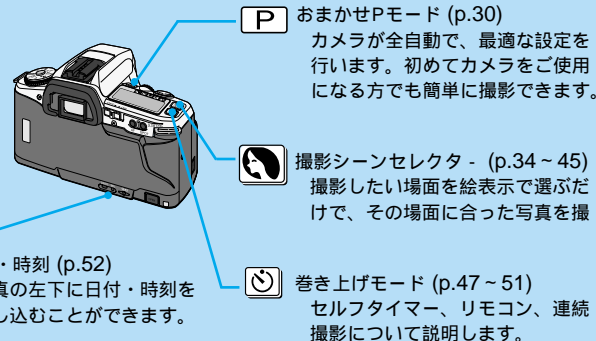
OFF にする場合と同じ要領で On を選びます。

基本撮影編

この章では基本の操作を理解し、簡単な撮影方法を覚えましょう。

P おまかせPモード (p.30)
●カメラが全自動で、最適な設定を行います。初めてカメラをご使用になる方でも簡単に撮影できます。

撮影シーンセレクター (p.34〜45)
●撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮

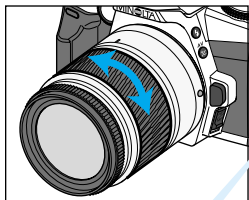
日付・時刻 (p.52)
●写真の左下に日付・時刻を写し込むことができます。

巻き上げモード (p.47〜51)
●セルフタイマー、リモコン、連続撮影について説明します。

撮影の流れ

まずはこのカメラを使いこなすための基本的な操作の流れを覚えましょう。

P おまかせPモードにします。 p.30

カメラを構えます。 p.30

写す大きさや構図を決めます。p.31

暗いときは自動でフラッシュが光る設定になります。

うまくフラッシュを使うには？

ファインダー内の ⚡ を確認します。 p.35

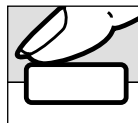
フラッシュ光の届く範囲に注意します。 p.36

必ず発光させる設定に変えます。p.37
蛍光灯の部屋や、逆光で人の顔が暗いとき。

発光させない設定に変えます。p.37
美術館などフラッシュ撮影が禁止されているとき。

暗いところで人を撮るときに、目が赤く写るのをやわらげます。 p.38

ピントが合っているかを確認するには？ p.32

ピントを合わせます。p.32
シャッターボタンを半押しします。

シャッターボタンを軽く押して途中で少し止まるところを**半押し**といいます。

ピントが合います。

撮影します。
シャッターボタンを押し込みます。

ピントが合わないときは？（ファインダー内に ( ) が点灯または ● が点滅したら）

- [　]の中に撮りたいものが入っていない。 → フォーカスロックを覚えましょう。 p.33
- オートフォーカスの苦手な被写体で、ピント合わせをおこなっている。 p.34 → フォーカスロックを覚えましょう。 p.33
- レンズの最短距離よりも近いものを撮ろうとしている。 → レンズの使用説明書を確認してください。

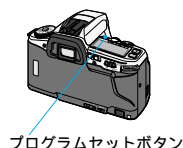
オートフォーカスでピントが合わない時はマニュアル(手動)で合わせることもできます。 p.85

ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにするはカスタム設定をします。 p.106

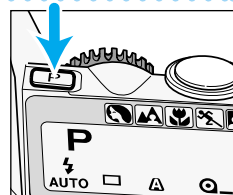
おまかせPモードで撮影する

お買い上げのときは、カメラはおまかせPモードになっています。

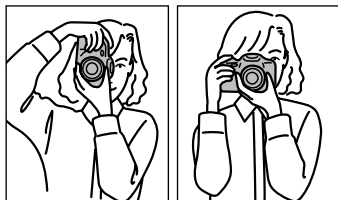
P おまかせPモードで撮影する

カメラが撮影の状況にあわせて最適な設定を全自動で行います。撮影者は構図決めとピント合わせに集中してシャッターを切ることができます。

プログラムセットボタン

P (プログラムセットボタン)を押します。

- 全自動の状態になります。
- フラッシュは、暗いときに自動的に光ります。

◆ **設定を変えないかぎり、毎回押す必要はありません。**

カメラを構える

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。

- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させて撮影してください。壁にもたれたり、机などに肘をついても効果があります。

◆ **暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれがおこりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。**

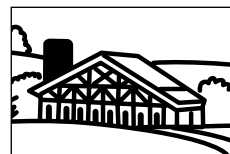
写す大きさを決める

写すものの大きさを変えるには以下の２つの方法があります。

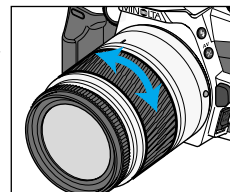
- 被写体に近づいたり、被写体から遠ざかったりする。
- レンズの焦点距離を変える。

広角…焦点距離28mmなど画角の広いレンズを広角レンズと言います。

望遠…焦点距離80mmなど画角の狭いレンズを望遠レンズと言います。

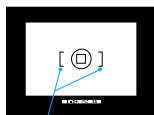
広角

望遠

- 広角の場合は広い範囲のものを画面に入れて写すことができ、望遠の場合は遠くのものを大きく写すことができます。

ズームレンズを使用している場合はズームリングを回して焦点距離を変え、写したいものの大きさを決めます。

ピントを合わせる

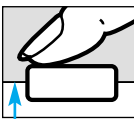
被写体をくっきりとシャープに写すためにはピント合わせをしてください。

シャッターボタンを半押しする

シャッターボタンを途中で少し止まるところまで押す(半押し)と、カメラがピント合わせを行います。

ワイドフォーカスフレーム

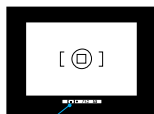
1 **ピントを合わせたいものが[ ](ワイドフォーカスフレーム)に入るようにカメラを構えます。**

2 **シャッターボタンを半押しします。**

● ピントが合うとピピッと音がします。(電子音がONの時)

途中で少し止まるところがあります。

◆ **焦点距離の長いレンズやマクロレンズをご使用のとき、あるいは暗い被写体を撮影するときは、ピントの精度を上げるためレンズの駆動が少し遅くなる場合があります。**

フォーカス表示でピントが合っているかを確認する

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。

フォーカス表示

表示	状態
● 点灯	ピントが合っています。
(●) 点灯	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
( ) 点灯	ピント合わせの途中です。シャッターは切れません。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。

CUST ● **点滅状態でもシャッターが切れるようにしたいときは、マニュアルフォーカスを使用する(p.85)かカスタム設定(p.106)をご覧ください。**

写したいものが画面中央にないときは(フォーカスロック)

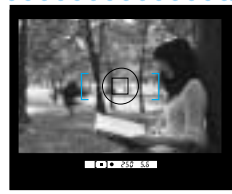
ピントを合わせたいものが、[ ]に入らないまま撮影すると、ピントを合わせたいものがぼけてしまいます。このようなときは次のようにしてピントを固定(フォーカスロック)してください。

1 **ピントを合わせたいものに[ ](ワイドフォーカスフレーム)を重ねます。**

2 **シャッターボタンを半押しします。**

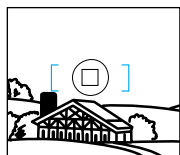
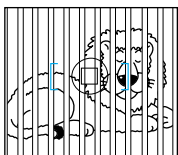
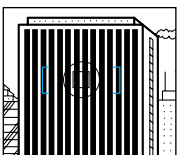
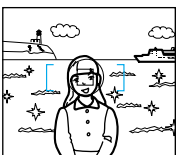
● ファインダー内の **●** **が点灯し、**[ ]に重ねたものにピントが固定されます。

シャッターボタンを軽く押して途中で少し止まるところを**半押し**といいます。

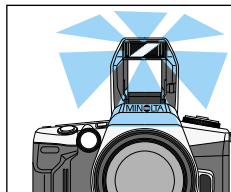
3 **半押ししたまま、撮りたい構図に変え、シャッターボタンを押し込みます。**

◆ **フォーカス表示 ● が点灯しないとき(被写体が動いているなど)は、ピントが固定されないので、フォーカスロック撮影はできません。**

◆ **カメラのスポットAFロックボタンでピントを固定(フォーカスロック撮影)することもできます。(p.79)**

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。次のような被写体ではピントが合いにくい場合があります。フォーカスロック(p.33)で同じ距離のものにピントを固定してから、シャッターボタンを半押しのまま構図を変えて撮影してください。

青空や白壁などコントラスト(明暗差)のないもの

おりの中の動物など、距離の異なるものが混じっているとき

ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

太陽のように明るい被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

暗いときはピント合わせのためにフラッシュが光ります(AF補助光)

暗いところでフラッシュ撮影していると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカス(AF)でピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

- スポットAFロックボタン(p.79)を押したときにも、AF補助光が光ることがあります。
- 補助光の届く範囲は、約1〜5mです(当社試験条件による)。
- 内蔵フラッシュを発光禁止 ⚡ にしているときは、AF補助光は発光しません。
- 被写体が動いているとき(コンティニュアスAFに設定しているとき)は、補助光は発光しません。
- プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
- レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3x-1x使用時にも、AF補助光は発光しません。

CUST ●このAF補助光を発光させないようにすることもできます(p.109)。

内蔵フラッシュ

このカメラには28mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー12(ISO100)の内蔵フラッシュが搭載されています。

おまかせPモードのときのフラッシュ撮影

暗い場所などで内蔵フラッシュが自動的に上がりファインダー内に ⚡ が点灯すると、撮影時に光ります。一度内蔵フラッシュが上がれば、必要な時に自動で光ります。

- ●フラッシュの充電が完了するまでシャッターは切れません。
- ●フラッシュの自動発光を止めたい時は、発光禁止に設定してください(p.37)。
- ●カメラの使用後は、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示で確認します

ファインダー内のフラッシュ表示が、フラッシュの状態をお知らせします。

フラッシュ表示と撮影状態	フラッシュの状態
⚡ 消灯 (シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後)	フラッシュの充電中です。 (シャッターは切れません。)
⚡ 点灯 (シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後)	フラッシュの充電が完了しました。
⚡ 点滅 (撮影後)	フラッシュ光が被写体に届きました。

⚡ が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。
次のページの「フラッシュ光の届く範囲に注意します」をお読みください。

フラッシュ光の届く範囲に注意します

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があります。範囲外の被写体を撮影してもフラッシュの効果は得られません。絞り値*とフィルム感度**によって異なりますので以下の表を目安にしてください。

絞り値…
シャッターボタンを半押ししたときに表示部に現れる3.5などの値です。(p.64)

*フィルム感度…
フィルム上にISO100やSO400というように記載されています。

ISO100のフィルム使用時

絞り値	F3.5	F4	F5.6
届く範囲	1.0〜3.4m	1.0m〜3.0m	1.0m〜2.1m

ISO400のフィルム使用時

絞り値	F3.5	F4	F5.6
届く範囲	1.0〜6.8m	1.0〜6.0m	1.0〜4.3m

内蔵フラッシュ使用時の注意

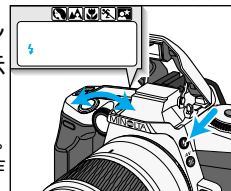
内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に注意して撮影してください。

- 被写体から1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取り外してください。
- 下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがあります。フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは「アフターサービスのご案内」に記載されている当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。
  - ・AFズーム17-35mm F3.5G
  - ・AFズーム28-70mm F2.8G
  - ・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
  - ・AFズーム28-135mm F4-4.5
- 下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
  - ・AFアポテレ300mm F2.8(ハイスピードタイプを含む)
  - ・AFアポテレ600mm F4(ハイスピードタイプを含む)
- このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離28mmの画角をカバーします。28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺まで光りが届かず、暗くなることがあります。

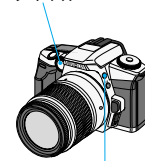
フラッシュを必ず発光させます(強制発光)

屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなどは、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

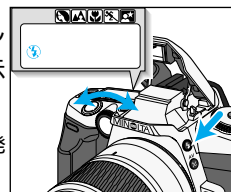
(フラッシュモードボタン)を押しながらダイヤルを回し、表示部に ϟ を表示させます。

- 撮影後もそのまま強制発光です。自動発光に戻すには、同じ操作で ϟAUTO を表示します。
- 簡単に一枚だけ強制発光させたい時は、フラッシュモードボタンを押しながらシャッターボタンを押して撮影してください。

フラッシュを発光させません(発光禁止)

美術館などフラッシュ禁止の場所では、フラッシュを発光させずに撮影します。

ダイヤル

フラッシュモードボタン

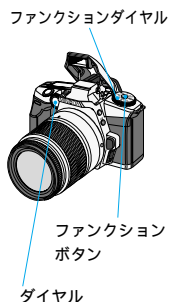
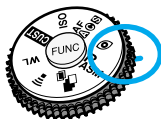
(フラッシュモードボタン)を押しながらダイヤルを回し、表示部に Ⓧ を表示させます。

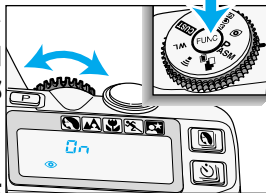
- フラッシュが上がった状態でも発光しません。
- 撮影後もそのまま発光禁止です。自動発光に戻すには、同じ操作で ϟAUTO を表示します。

◆ **暗いところで発光禁止を選んで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります。三脚を使って撮影してください。**

CUST ● **フラッシュが上がってさえいれば常に発光するように、フラッシュが下がっていれば常に発光しないようにカメラの設定を変えることもできます(p.109)。**

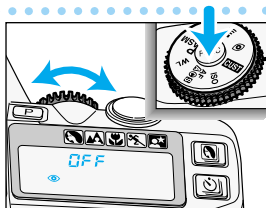
目が赤く写るのをやわらげます(赤目軽減発光)

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象をやわらげることができます。

1 ファンクションダイヤルを 👁 の位置まで回します。

2 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に 👁 と On を表示させます。

● ボタンから手を離すと通常の表示に戻り、ボディ表示部に 👁 が残ります。

◆ ワイヤレスフラッシュ撮影(p.95)時は赤目軽減発光はできません。赤目軽減発光をONに設定していても、一時的に解除されます。

赤目軽減発光をOFFにする

On にする場合と同じ要領で OFF を選びます。

こんな撮影がしたい(シーンセレクター撮影)

こんな撮影がしたいというイメージを絵表示で選ぶだけで、カメラが自動的にその場面にあった最適な設定をします。

人物を中心に撮影したい

ポートレート　p.40

風景といっしょに人を撮影したい

記念撮影・風景　p.41

花などに近づいて大きく撮影したい

クローズアップ　p.42

動いている人を撮影したい

スポーツ　p.43

夜景といっしょに人を撮影したい

夜景ポートレート　p.44

夜景を撮影したい

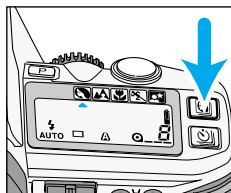
夜景撮影　p.45

ポートレート

背景をほどよくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

撮影シーン選択ボタン

1

(撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2

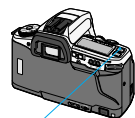
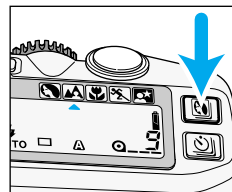
撮影します。

- ◆ 逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
- ◆ 背景をぼかすには、ズームレンズの望遠側(または望遠レンズ)が効果があります。

記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

撮影シーン選択ボタン

1

(撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2

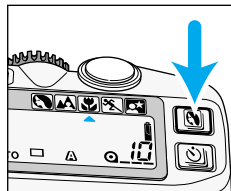
撮影します。

- ◆ 記念写真で逆光のときは、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影するときは、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください。フラッシュモードボタンとダイヤルで発光禁止 を選んでください(p.37)。内蔵フラッシュ光の届く範囲については36ページをご覧ください。
- ◆ 曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
- ◆ 夜景を背景に記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください(p.44)。
- ◆ 画面全体にピントを合わせるには、ズームレンズの広角側(または広角レンズ)の方が効果があります。

クローズアップ

小さい草花や昆虫などに近づいて撮影するときに使います。被写体全体をくっきりとシャープに写すことができます。

1

(撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2

撮影します。

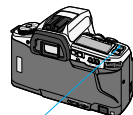
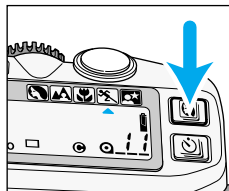
- ピントの精度を上げるため、レンズの駆動が少し遅くなる場合があります。

- ◆ 1m以内の距離では、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使用しないでください(フラッシュモードボタンとダイヤルで発光禁止 を選んでください)。1m以内のフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュをおすすめします。
- ◆ レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。

- ◆ より大きく撮影するには、AF マクロレンズをおすすめします。
- ◆ マクロ撮影時はフードを外して撮影することをおすすめします。

スポーツ

早く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

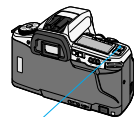
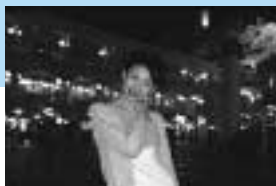
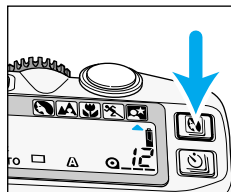
1

(撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2

撮影します。

- ◆ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。
- ◆ フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュは使用しないでください(フラッシュモードボタンとダイヤルで発光禁止 を選んでください)。内蔵フラッシュ光の届く範囲については36ページをご覧ください。
- ◆ 望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。
- ◆ このモードでは、被写体の動きに応じて常にピント位置が変わるコンティニュアスAF Ⓒ になります。

夜景ポートレート

夜景や夕景を背景にして記念撮影するときに、手前の人も背景もきれいに撮影します。

1

(撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2

撮影します。

◆ シャッター速度が遅くなりますので、三脚をお使いのうえ、写される人に声をかけてフラッシュ発光後も動かないように気をつけてもらうことをおすすめします。

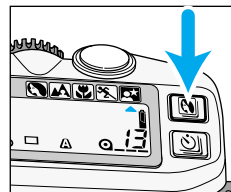
◆ フラッシュは自動発光 または強制発光 にしてください(p.37)。

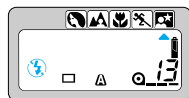
◆ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。

夜景撮影

フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1

(撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2

(フラッシュモードボタン)を押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に を表示させます。

3

撮影します。

◆ シャッター速度が遅くなり、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

◆ 明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。

◆ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。

◆ ピントが合いにくいときは、明るい部分でピントを合わせてから撮影してください。

こんな撮影がしたい(巻き上げモード)

巻き上げモードボタンを使うと以下のような撮影ができます。また日付・時刻写し込みボタン、セレクトボタンにより日付・時刻を写し込むことができます。

撮影者も写真に写りたい

タイマーでシャッターを10秒後に切ります。

セルフタイマー p.47

撮影者も写真に写りたい

別売のリモコンを使ってシャッターを切ります。

リモコン p.48

連続してシャッターを切りたい

シャッターボタンを押し続けると連続して撮影します。

連続撮影 p.51

できあがりの写真に日付・時刻を写し込みたい

写真の左下に日付・時刻を写し込みます。

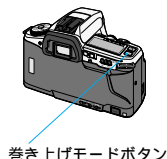
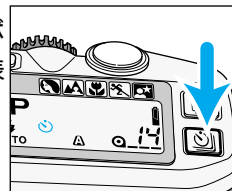
日付・時刻を写し込む p.52

セルフタイマーを使う

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

巻き上げモードボタン

1 カメラを三脚などに固定します。

2 (巻き上げモードボタン)を押し、を表示させます。

3 シャッターボタンを半押しして、撮りたいものにピントを合わせます。

セルフタイマーランプ

4 そのままゆっくりとシャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- 電子音設定がONの場合、撮影のタイミングを音でもお知らせします。

◆ カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせができなくなります。

◆ 撮影後、セルフタイマー撮影は解除されます。
◆ 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをOFFにするか、もう一度(巻き上げモードボタン)を押してください。
◆ カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください(p.87)。

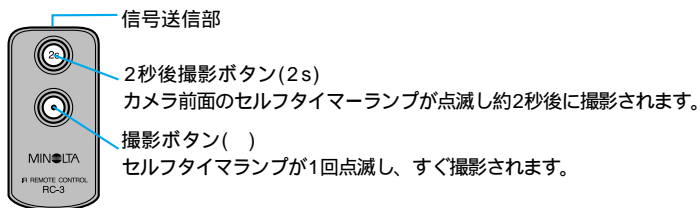
リモコンを使う

別売のIRリモコンRC-3*を使うと、離れたところから撮影できます。
この使用説明書ではIRリモコンRC-3のことをリモコンと呼びます。

リモコンの各部名称

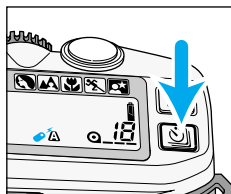
信号送信部

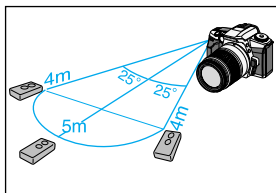
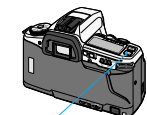
2秒後撮影ボタン(2 s)
カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し約2秒後に撮影されます。

撮影ボタン(●)
セルフタイマランプが1回点滅し、すぐ撮影されます。

リモコンを使った撮影

巻き上げモードボタン

1 カメラを三脚などに固定します。

2 (巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に を表示させます。

3 リモコンをカメラに向けて2sボタンか●ボタンを押して撮影します。

● 電子音設定ONの場合、撮影のタイミングを音でもお知らせします。

リモコン信号の受信範囲

- 使用するレンズによって作動範囲が狭くなる場合があります。
- リモコンモード設定時、シャッターボタンでピントを合わせると、リモコンのボタンを押してもピント合わせは行われません。
- リモコンモードで、シャッターボタンを押して撮影するとリモコン撮影は解除されます。
- 逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影が可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

- 撮影後もリモコン撮影は解除されません。そのまま続けて撮影できます。
- 内蔵フラッシュが発光するときは、最初にリモコンのボタンを押したときにフラッシュが上がって充電が始まり、再度リモコンのボタンを押したときに撮影されます。
- リモコン撮影を解除するには、メインスイッチをOFFにするか、もう一度巻き上げモードボタンを押し、別の設定にしてください。また、5分以上カメラやリモコンを操作しないと、自動的にリモコンモードは解除されます。フィルムを交換してもリモコンモードは解除されます。
- カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください(p.87)。

[ ]のなかに撮りたいものがないときは

IRリモコンRC-3を使って撮影する場合に、被写体が画面中央にないときは以下の手順で撮影してください。

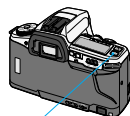
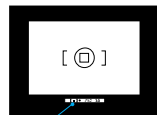
巻き上げモードボタン

半押し

1 カメラを三脚などに固定します。

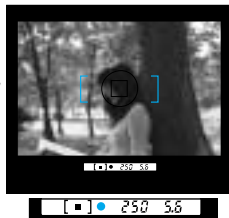
2 (巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に を表示させます。

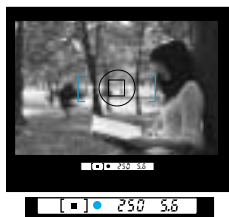
3 シャッターボタンを半押しして撮影したいものに、ピントを合わせます。

次ページに続く

フォーカス表示

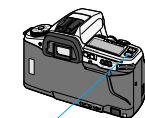
4

ファインダー内のフォーカス表示●が点灯したらシャッターボタンから指を離します。

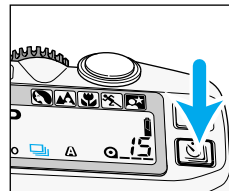
- シャッターボタンから指を離してもピントおよび露出は固定されています。
- ボディ表示部にも測光値が表示されます。

5

撮りたい構図に変え、リモコンで撮影します。

◆ 撮影後もピントは固定されています。ピント位置を変えて撮影する場合は、上記手順3～5を繰り返してください。
◆ コンティニュアスAF(p.83)の場合は、この方法での撮影はできません。
◆ 半押しの代わりにスポットAFロックボタンを押しても上記と同じように撮影できます。

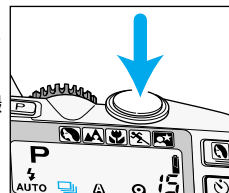
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影します。

巻き上げモードボタン

1

(巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に を表示させます。

2

シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 押し続けている間、連続撮影されます。

◆ AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

◆ 次の条件のとき1秒に約1.7コマの速さで撮影できます。
ワンショットAFまたはマニュアルフォーカスで、シャッター速度が1/250秒以上、フラッシュ発光なし、新品電池使用。
◆ 連続撮影を終えるときは、 (巻き上げモードボタン)を押して、ボディ表示部に を表示してください。
◆ 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
◆ AFモードをA(自動切り替え)またはC(コンティニュアス)にしている場合、シャッターボタンを押し続けている間は、被写体までの距離が変わったときはそのたびにピントを合わせ直します。
ピントが合うまでシャッターは切れませんので、連続撮影の速さを優先したいときは、カメラをレリーズ優先(p.106)またはマニュアルフォーカス(p.85)にしてください。

DATE 日付・時刻を写し込む

2039年までの日付・時刻を写し込むことができます。

おおよその写し込み位置

写し込みするには

撮影時の日付や時刻を写真の左下に写し込むことができます。日付・時刻表示用の電源は、カメラ本体の電池を兼用しています。

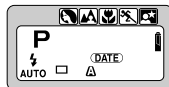
日付・時刻写し込みボタン

1 日付・時刻写し込みボタンを押し、写し込みたい表示を選びます。

● 日付・時刻写し込みボタンを押すたびに下の図の順で表示が変わります。

DATE SEL

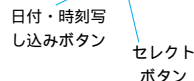
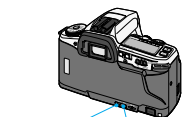
2 シャッターボタンを半押しします。

● 表示が設定され、ボディ表示部に DATE が残ります。

◆ セレクトボタンや日付・時刻写し込みボタンは、ボールペンなど先の丸いもので軽く押します。先のとがったもので押すと、故障の原因になります。

◆ 写し込み位置に明るい色(空や白い壁など)があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。

日付・時刻を修正したいときは

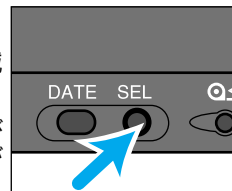
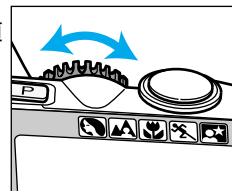
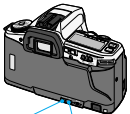
日付・時刻の数値を修正することができます。

日付・時刻写し込みボタン

セレクトボタン

ダイヤル

1 日付・時刻写し込みボタンを押します。

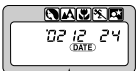
2 セレクトボタンを押し、変更したい項目を点滅させます。

● セレクトボタンを押すたびに、年→月→日→時→分が点滅します。

3 ダイヤルを回し、数値を修正します。

4 必要なだけ2と3の操作を繰り返します。

5 シャッターボタンを半押しします。

● 表示が設定され、ボディ表示部に DATE が残ります。

◆ 電池を交換した時に日付・時刻を設定する場合は、セレクトボタンを押すと記憶されている日付・時刻の数値が表示される(p.20)ので、ダイヤルを回して数値を修正します。

年月日の並び方を変えるには

年月日の並び方を変えることができます。

1 日付・時刻写し込みボタンを押します。

2 セレクトボタンを3秒間押し続けます。

● 年月日の数値が点滅します。

3 ダイヤルを回し、希望する並びに変更します。

4 シャッターボタンを半押しします。

● 表示が設定され、ボディ表示部に DATE が残ります。

- 規定枚数以上撮影した場合、最後のコマは現像処理でカットされてしまうことがあります。
- フィルムの最後のコマでは正しく日付や時刻の写し込みがされない場合があります。
- 日付・写し込み機能は0～50℃の範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。
- 電池を交換した後や入れ直した後は、日付・時刻を設定し直してください。簡単に設定し直すための手順は20ページをご参照ください。そのままでは日付・時刻は写し込まれません。

- 日付・時刻が設定されていない場合、メインスイッチをONにするとボディ表示部に日付の数値が点滅してお知らせします。日付・時刻を再設定してください。
- 秒を時報に合わせるときは分を1分前の数値に合わせ、時報とともにダイヤルを回し設定分に合わせます。

応用撮影編

この章では露出、ピント合わせ(上級編)、フラッシュ(上級編)について説明します。これらの機能を理解して使うことで撮影者の意図が反映された、より創造的な写真を撮ることができます。

一眼レフカメラを使いこなそう

このカメラをより使いこなすために、以下のような機能をお使いいただけます。
必要に応じて必要な箇所をお読みください。

露出を使いこなしましょう

▶ 露出、絞りとシャッター速度について理解します。

▶ 露出モードを使います。

▶ 露出を判断する測光方式を理解して使います。

▶ より確実な露出を得るための機能を使います。

ピント合わせ(上級編)

▶ ピントを合わせる位置を決めます。

▶ ピント合わせをカメラのオートフォーカスを用いるか、マニュアル(手動)で行います。

フラッシュ(上級編)

▶ フラッシュについて詳しく理解します。

▶ 夜景と人物を撮影する時などに使います。

▶ 立体的なライティングを行います。

プログラムセットボタンの機能

上のような機能の設定をお買い上げ時の状態にリセットします。…p.100

露出について

フィルムにあたる光の量を露出と言います。

露出は絞りとシャッター速度で調整する

フィルムにあたる光の量は、絞りとシャッター速度によって調整できます。

◆絞りとは、レンズを通る光の入り口のことです。

絞りを開ける
(絞り値を小さくする)
＝光の量は多くなる

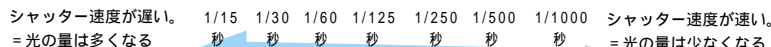
F2.8　F4　F5.6　F8　F11　F16　F22

絞りを絞る
(絞り値を大きくする)
＝光の量は少なくなる

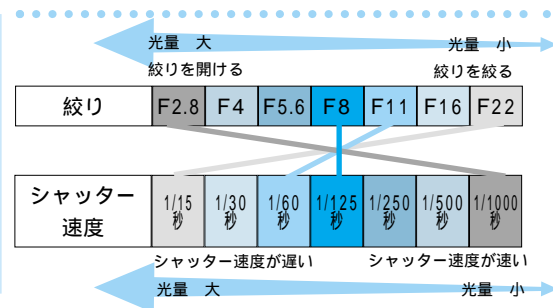
◆シャッター速度とは、フィルムへの露光の時間のことです。

シャッター速度が遅い。
＝光の量は多くなる

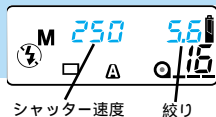
1/15秒　1/30秒　1/60秒　1/125秒　1/250秒　1/500秒　1/1000秒

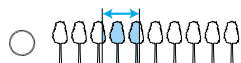
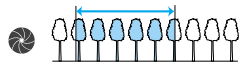
シャッター速度が速い。
＝光の量は少なくなる

適正露出とは

適正露出とは、被写体の色に対してフィルムにあたる光の量が最適なこと*を言います。適正露出となる絞りとシャッター速度の組み合わせは何通りかあります。例えば、絞りがF8でシャッター速度1/125秒が適正露出の時、下の表で同色の絞りとシャッター速度のどの組み合わせ（F2.8と1/1000秒、F11と1/60秒など）でも同じ露出となります。

露出を一定に保つためには、絞りを開けるとシャッター速度は速くなり、絞りを絞るとシャッター速度は遅くなります。

◆ このカメラは14分割ハニカムパターンという測光方式(p.68)で、基準となる適正露出を判断し、それをもとに絞り値やシャッター速度の設定をおこないます。

絞りとシャッター速度

絞りとシャッター速度を調節すると、写真の描写を変えることができます。

絞りの効果

りを開ける
絞り値を小さくする） F2.8 F4 F5.6 F8 F11 F16 F22 絞りを絞る
（絞り値を大きくする）

ピントの合う範囲(被写界深度)が小さい。
絞りを開けると、ピントが被写体のみに合っていて、背景はボケており、人物がくっきり浮き出た描写になります。

ピントの合う範囲(被写界深度)が大きい。
絞りを絞ると、被写体だけでなく、その前後の広い範囲にピントが合った描写となるので、記念撮影や風景の撮影に適しています。

シャッター速度の効果

ャッター速度が遅い。 1/15秒 1/30秒 1/60秒 1/125秒 1/250秒 1/500秒 1/1000秒 シャッター速度が速い。

シャッター速度が遅いと、滝の水の流れがよく表現されます。

シャッター速度が速いと、滝の水しぶきが止まって描写されます。

絞りを変えたい。

A(絞り優先)モード
→p.60

希望の絞り値を決めることができます。選んだ絞り値にあわせて、カメラがシャッター速度を自動的に決めます。ポートレート写真など背景のボケ具合をコントロールしたいときなどに使います。

絞りとシャッター速度をカメラまかせで撮影したい。

P(プログラム)モード
→p.66

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真などに最適です。

- プログラムセットボタンを押すとPモードになります。
- CUST Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることもできます(p.66)。

絞りとシャッター速度を自分で調節したい。

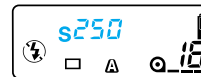
M(マニュアル)モード
→p.64

M 250 5.6 16

絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

シャッター速度を変えたい。

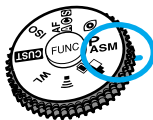
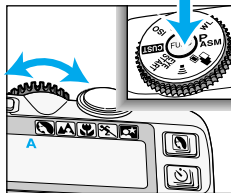
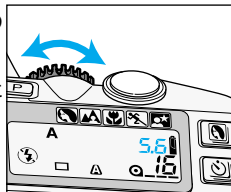
S(シャッター速度優先)モード
→p.62

S250 16

希望のシャッター速度を決めることができます。選んだシャッター速度にあわせてカメラが自動的に絞り値を決めます。スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときに使います。

PASM A(絞り優先)モード

希望の絞り値を選ぶと、カメラが自動的にシャッタースピードを決めます。被写界深度をコントロールしたい時に使います(p.58)。

Aモードで撮影する

1 ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にAを表示させます。

3 ダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

● 設定できる絞り値はレンズによって異なります。

シャッター速度が2000または30"で点滅している場合

● 点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバー*または露出アンダー**になります。

露出オーバー*…フィルムが感光しすぎて白っぽくなります。

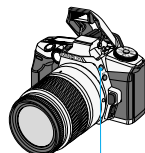
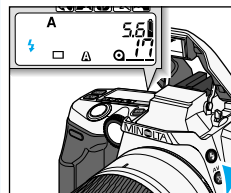
露出アンダー**…フィルムの感光が少なく黒っぽくなります。

! ◆ 絞り値を大きくする(絞りを絞る）と、シャッター速度は自動的により遅い値になります。手ぶれに注意して撮影してください。

◆ 広角レンズほどピントの合ってみえる範囲が広くなり、望遠レンズほど狭くなります。カメラから被写体の距離が短いほど、ピントの合って見える範囲が狭くなります。

◆ Aモード撮影を終了したい時は、左記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。

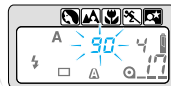
Aモードでフラッシュ撮影する

Aモードでは、フラッシュは自動で光りません。フラッシュを光らせたい時は内蔵フラッシュを上げるか、プログラムフラッシュを取り付けます。

(フラッシュモードボタン)を押します。

● フラッシュが上がり、ボディ表示部には ϟ が表示されます。

● シャッタースピードは自動的に1/90秒以下になります。

シャッター速度が90で点滅している場合

● 点滅しなくなるまで絞り値を絞ってください。カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバー*になります。

◆ 絞り値を大きくする(絞りを絞る)ほど、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(絞りを開ける）撮影することをおすすめします(p.36)。

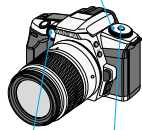
フラッシュ撮影を終了する

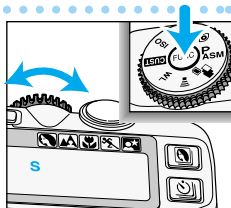
内蔵フラッシュを手で押し下げるか、プログラムフラッシュの電源を切ると、フラッシュ撮影は終了します。

● がボディ表示部に表示されます。

PASM S(シャッター速度優先)モード

希望のシャッタースピードを選ぶと、カメラが自動的に絞り値を設定します。動いているものの描写をコントロールする時に使います(p.58)。

Sモードで撮影する

1 **ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。**

2 **ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にSを表示させます。**

3 **ダイヤルを回し、希望のシャッター速度を選びます。**

● 設定できるシャッター速度は1/2000秒～30秒までです。

90…1/90秒を表します。

2"…2秒を表します。

絞り値が点滅している場合

● 点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください。カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバー*または露出アンダー**になります。

露出オーバー*…フィルムが感光しすぎて白っぽくなります。

露出アンダー…フィルムの感光が少なく黒っぽくなります。**

◆ Sモード撮影を終了したい時は、上記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。

◆ 手ぶれを目立たさないシャッター速度の目安は、$\frac{1}{\text{レンズの焦点距離}}$（200mmのレンズを装着している場合は1/250秒が目安）または1/45秒のどちらか速いほうになります。シャッター速度が遅くなるときは三脚をお使いください。

Sモードでフラッシュ撮影する

Sモードでは、フラッシュは自動で光りません。フラッシュを光らせたい時は内蔵フラッシュを上げるか、プログラムフラッシュを取り付けます。

(フラッシュモードボタン)を押します。

● フラッシュが上がり、ボディ表示部には ϟ が表示されます。

● 1/90秒より速いシャッター速度は選べません。

◆ シャッター速度を遅くして絞りが絞り込まれる(絞り値が大きくなる)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。ある程度の速さのシャッター速度で撮影することをおすすめします。(内蔵フラッシュ光の届く範囲は36ページ、プログラムフラッシュ光の届く範囲はフラッシュの使用説明書をご覧下さい。)

フラッシュ撮影を終了する

内蔵フラッシュを手で押し下げるか、プログラムフラッシュの電源を切ると、フラッシュ撮影は終了します。

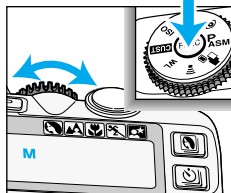
● (ϟ) がボディ表示部に表示されます。

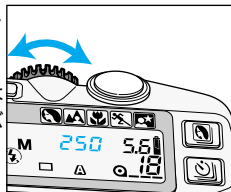
PASM M(マニュアル)モード

絞り値とシャッター速度の両方を自由に選ぶことができます。露出計を使って撮影する時などに便利です。

Mモードで撮影する

1 ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にMを表示させます。

3 ダイヤルを回し、希望のシャッター速度を選びます。

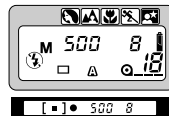
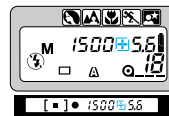
- 設定できるシャッター速度は1/2000秒〜30秒およびバルブ(p.86)です。

4 (露出補正ボタン)を押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- 設定できる絞り値はレンズによって異なります。

◆ Mモードでは露出補正はできません。

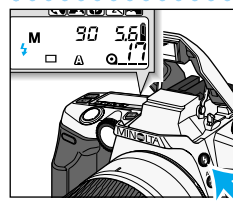
◆ Mモード撮影を終了したい時は、上記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。

Mモード時の表示部

撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出が、カメラが測光した基準露出に比べてオーバーかアンダーかをお知らせします。

＋や－の表示がでない：
カメラが測光した基準露出と、同じ露出値の設定です。

＋が点灯：
カメラが測光した基準露出より、オーバーの設定です。白っぽい写りとなり、白い被写体は白さが再現されます。

－が点灯：
カメラが測光した基準露出より、アンダーの設定です。黒っぽい写りとなり、黒い被写体は黒さが再現されます。

Mモードでフラッシュ撮影する

Mモードでは、フラッシュは自動で光りません。フラッシュを光らせたい時は内蔵フラッシュを上げるか、プログラムフラッシュを取り付けます。

(フラッシュモードボタン)を押します。

- フラッシュが上がり、ボディ表示部には ⚡ が表示されます。
- 1/90秒より速いシャッター速度は選べません。

◆ 絞り値を大きくする(絞りを絞る)ほど、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(絞りを開ける)撮影することをおすすめします(p.36)。

フラッシュ撮影を終了する

内蔵フラッシュを手で押し下げるか、プログラムフラッシュの電源を切ると、フラッシュ撮影は終了します。

- ⚡ がボディ表示部に表示されます。

PASM　PモードでPA/PSシフト

Pモードのままで、一時的に絞り値またはシャッター速度を変更することができます。この機能はカスタムで設定し(p,109)、フラッシュが発光禁止の時に使用できます。

PAシフトする（一時的に絞り値を変える）

絞り値は1/2段ごとに変わります。

1 カスタム8ー2に設定します。(p.104)

2 シャッターボタンを半押しします。

● 絞り値とシャッター速度がボディ表示部に出ます。

3 ダイヤルを回します。

● PAがボディ表示部に出ます。

4 PA表示後、ダイヤルを回し絞り値を選びます。

● シャッター速度は自動的に決まります。

PSシフトする(一時的にシャッター速度を変える)

シャッター速度は1/2段ごとに変わります。

1 カスタム8－3に設定します。(p.104)

2 シャッターボタンを半押しします。

● 絞り値とシャッター速度がボディ表示部に出ます。

3 ダイヤルを回します。

● PSがボディ表示部に出ます。

4 PS表示後、ダイヤルを回しシャッター速度を選びます。

● 絞り値は自動的に決まります。

◆ フラッシュをONにするか、絞り値またはシャッター速度の値が消えてから5秒経過するとPA/PSシフトが解除されPモードに戻ります。

露出の警告(絞り値やシャッター速度の点滅)

そのまま撮影すると適正露出が得られない時は、絞り値やシャッター速度の表示が点滅してお知らせします。点滅しなくなるまで設定値を変えてください。

	表示部	原因	処置
P／A／S／M		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。 ●スポットAEロックボタン(p.68)を押してフラッシュが発光しない場合にのみに表れます。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。 被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。	
A (PA)		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています。	シャッター速度が点滅しないように、絞り値を変更します。
S (PS)		被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています。	絞り値が点滅しないように、シャッター速度を変更します。

◆ 上記のうち、上の2つは撮影シーンセレクター選択時にも表示されることがあります。

測光方式

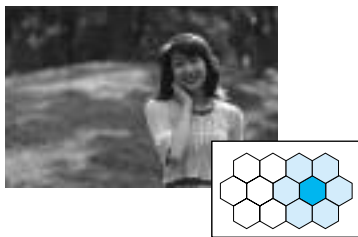
適正露出(フィルムにあたる最適な光の量)を判断するために、カメラが光の量を測ることを測光と言います。

１４分割ハニカムパターン測光(画面全体を測る)

このカメラの通常の測光方式です。画面全体の光を測るので、一般的な場面での撮影に適しています。

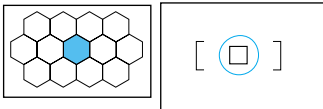
● カメラの画面内に１３個のハニカム(ハチの巣)形状の測光素子を配置し、その周囲との合計１４個の素子で測光した値をコンピューターで演算処理し適正な露出を判断します。画面内のどこに被写体があっても、オートフォーカスと連動しているので、被写体の位置に関係なく常に適正な露出を得ることができます。

被写体が中央にあるとき

被写体が右にあるとき

◆ マニュアルフォーカスで、カメラにDレンズ以外のレンズを付けていると自動的に中央重点平均測光に近い方式になります。その場合、オートフォーカスの測光値とマニュアルフォーカスの測光値が異なる場合があります。

スポット測光(特定部分を測る)

画面の中央のみの光を測ります。意図的に特定の範囲のみの測光で撮影したい場合に適しています。

● 画面中央の１個の測光素子のみで適正露出を決定します。

ＡＥロックで撮影する(スポット測光を使う)

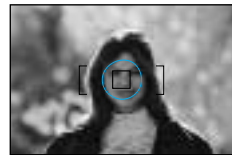
スポット測光で特定の部分のみを測光し、その測光値を固定(ロック)して撮影することをＡＥロックと言います。極端に白いものと黒いものが混在する画面や、逆光時のポートレート撮影*などに使います。

● Ａの部分のみ、Ｂの部分のみで測光して撮影すると下のような違いがでます。

Ａの部分にＡＥロックして撮影

Ｂの部分にＡＥロックして撮影

逆光時のポートレート撮影*
人物の顔が適正露出となるようにするには、人物の顔の部分のみをスポット測光します。

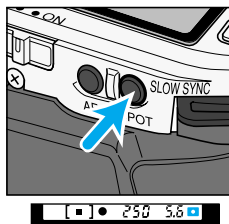
測光したい部分にスポット測光サークルをあわせます。

◆ フラッシュが発光するとき(ファインダー表示部に ϟ が点灯しているとき)は、スポットAEロックボタンを押しながら撮影すると、スローシンクロ撮影になります(p.94)。

次ページに続く

スポットAEロックボタン

2

スポットAEロックボタンを押します。

● ファインダー表示部に ■ が点灯し、露出値が固定されたことをお知らせします。

3

スポットAEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。

● スポットAEロックボタンを押したまま構図を変えることもできます。

CUST ● スポットAEロックボタンから指を離しても露出が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)カメラの設定を変えることもできます。(p.111)。

◆ **フラッシュが発光禁止でスポットAEロックボタンを押した時に、■ が点滅した時は、被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。被写体が明るすぎるときはNDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行うか、被写体が明るくなるようにします。**

露出補正

一般にカメラまかせで撮影しても、被写体の色(反射率)により適正露出を得られないことがあります。そのような時は自分で露出を補正します。

露出補正の効果とは

カメラは被写体を灰色と仮定して露出を制御します。そのため、自動露出で白い被写体を測光すると、カメラは「白い」とではなく「明るい」と判断し、その白が灰色に写るよう露出をアンダー*に制御します。反対に、自動露出で黒い被写体を測光すると、カメラは「黒い」とではなく「暗い」と判断し、その黒が灰色に写るよう露出をオーバー**に制御します。目で見た白色や黒色を再現するためには露出補正が必要です。

露出アンダー*…
フィルムの感光が少なく黒っぽくなります。

露出オーバー…**
フィルムが感光しすぎて白っぽくなります。

白い花の露出補正前

露出アンダーになり灰色の花に写ります。

プラス1段の露出補正後

花の白さが再現されます。

◆ **ネガフィルムでは効果がでにくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。**

◆ **Mモードでは露出補正はできません。Mモードの場合は、撮影者の設定がカメラが測光する基準露出値に比べてアンダーあるいはオーバーの時は、カメラがお知らせします(p.65)。**

次ページへ続く

露出補正の段数とは

段数とはEV(Exposure Value)ともいい露出の量を表します。プラス1段とはフィルムに当たる光量が2倍になることを表し、マイナス1段とはフィルムに当たる光量が1/2倍になることを表します。

A(絞り優先)モードでF8、1/125秒がカメラの基準露出値の時に露出補正をかけると**シャッター速度**が以下のように変化します。

写真の仕上がり	明るく(白く)したい ←					→ 暗く(黒く)したい	
絞り	F8						
シャッター速度	…1/45	1/60	1/90	1/125	1/180	1/250	1/350…
露出補正	…+1.5	+1.0	+0.5	±0	−0.5	−1.0	−1.5…

光量2倍　光量1/2倍

S(シャッター速度優先)モードで1/125秒、F8がカメラの基準露出値の時に露出補正をかけると**絞り**が以下のように変化します。

写真の仕上がり	明るく(白く)したい ←					→ 暗く(黒く)したい	
シャッター速度	1/125						
絞り	…F4.5	F5.6	F6.7	F8	F9.5	F11	F13…
露出補正	…+1.5	+1.0	+0.5	±0	−0.5	−1.0	−1.5…

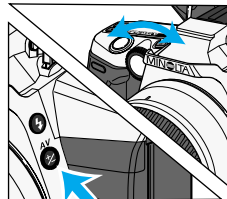
光量2倍　光量1/2倍

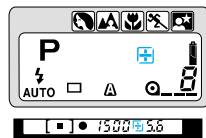
◆ **Pモードでは、シャッター速度と絞りのいずれもが変化して露出補正を行います。**

露出補正の設定をするには

このカメラは、段数とプラス側かマイナス側かを指定して露出補正をすることができます。

+/-(露出補正ボタン)を押しながらダイヤルを回し、希望の補正値を選びます。

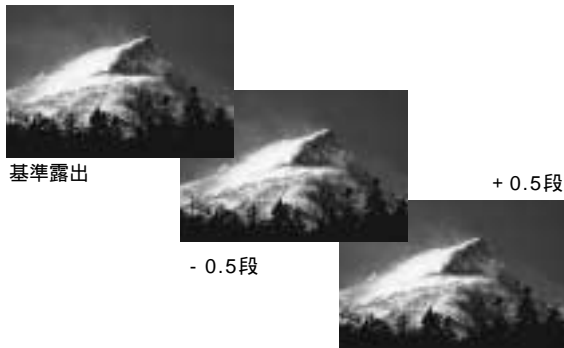
● マイナス3.0段からプラス3.0段まで、0.5段ごとに設定できます。

プラス0.5段

● 露出補正ボタンから指を離すと、通常の表示に戻ります。
ボディ表示部とファインダー内に ⊞ か ⊟ の表示が残り、露出補正されていることを示します。

露出補正を解除するには

上記と同じ操作で補正値を0.0にしてください。

自動的に露出をずらす(ブラケット)

リバーサルフィルムを使う時など、厳密な露出を要求される撮影では基準露出での撮影以外にアンダー側とオーバー側に露出をずらして3枚の撮影をします。

ブラケット…
露出をずらして何点かの写真を連続撮影することをブラケットといいます。

連続撮影3枚のブラケットを撮影する

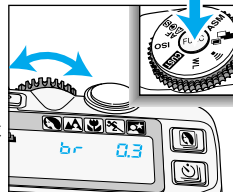
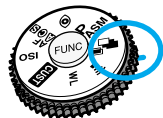
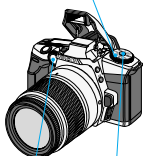
シャッターボタンを押し続けている間､連続して3枚のブラケット撮影ができます。

1

ファンクションダイヤルを の位置まで回します。

2

ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、段数を設定します。

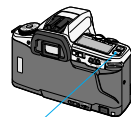
● 0.3段、0.5段、0.7段、1段のなかから段数を選べます。

3

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 基準露出、露出アンダー、露出オーバーの順に撮影します。

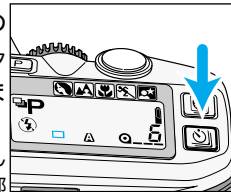
◆ **連続撮影の途中で指を離すと、ブラケット撮影がキャンセルされます。もう一度シャッターボタンを押すと、新たに次のブラケット撮影を始めます。**

1コマずつのブラケットを撮影する

1コマずつシャッターボタンを押して3枚のブラケット撮影を行います。

巻き上げモードボタン

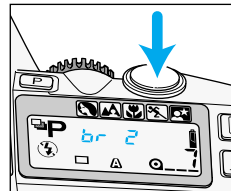
3

左の2のステップの後、(巻き上げモードボタン)を押して □ を選びます。

● シャッターボタンを半押しして指を離すと、ボディ表示部に br 1 が表示され、ブラケット撮影の1枚目であることをお知らせします。

4

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 1コマごとにシャッターボタンを押して撮影してください。

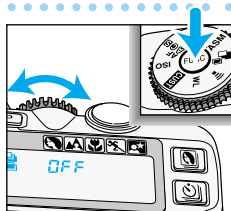
● 2コマ目の撮影前に br 2 が、3コマ目の撮影前に br 3 表示されます。

◆ **フラッシュは発光しません。ボディ表示部には が表示されます。フラッシュを発光させたい時はブラケット撮影を解除してください。**

◆ **ネガフィルムでは効果がでにくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。**

◆ **基準露出は、1枚目を撮影するときに固定して設定されます。**

◆ **露出補正(p.70)をかけると、基準露出値はそれに応じてシフトします。**

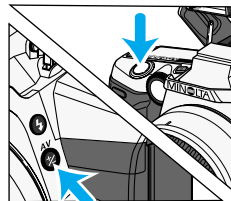
ブラケット撮影解除するには

設定する時と同じ操作で 🗐 と OFF をボディ表示部に表示させます。

簡単にブラケット撮影をするには

露出補正ボタンを使ってブラケット撮影することもできます。

露出補正ボタン

+/- (露出補正ボタン)を押しながらシャッターボタンを押し続けます。

● 3枚の連続撮影になりますので撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。
● 段数は自動的に0.5段の設定となります。
● +/- (露出補正ボタン)から指を離すと元の設定に戻ります。

ISOフィルム感度

フィルム感度はISOという単位で表され、フィルムパッケージなどに記載されています。

フィルム感度とは

フィルム感度とは、フィルムが光を感じることのできる度合いです。高感度フィルム(ISO400やISO800など)は、光を感じる度合いが強く暗い場所での撮影に適していますが、写真の粒子が荒くなる傾向があります。反対に低感度フィルム(ISO100や50)は粒子が細かくなり、よりシャープな描写が実現される傾向があります。

フィルム感度の設定

このカメラは、DXコードの付いているフィルムを使用している時は自動的にフィルム感度を設定します。DXコードの付いていないフィルムをお使いの場合は、パッケージなどに記載されているフィルム感度を以下の操作でカメラに設定してください。
● リバーサルフィルム使用時の増感撮影*など意図的にフィルム感度を変更する場合も以下の操作を行ってください。

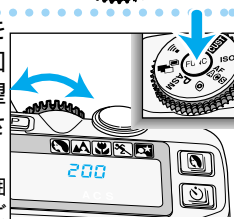
DXコード付きフィルム

増感撮影*…
ISO100のフィルムを使用しているが、速いシャッター速度を使用したい時にISO400などに設定します。フィルム1本は同じ設定にしてください。
現像時に増感撮影したことをお店の方へお伝えください。

1 カメラにフィルムを入れます。

2 ファンクションダイヤルをISOの位置まで回します。

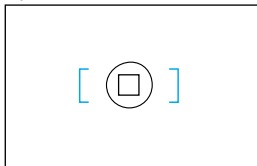
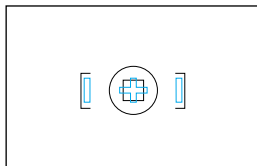
3 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に希望のフィルム感度を表示させます。

● 設定可能なフィルム感度の範囲はISO6〜6400です。1/3段ごとの設定が可能です。

● フィルム感度を意図的に変更した場合、その後も同じ感度のフィルムを続けてカメラに入れると、同様の変更が自動的に行われるように設定することもできます(p.77)。

[▮▪▮] ピント位置(フォーカスフレーム)

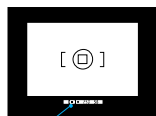
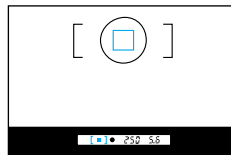
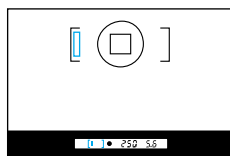
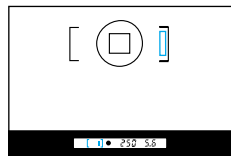
ピントを画面内のどこで合わせるかを決めます。

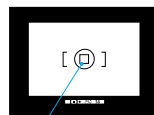
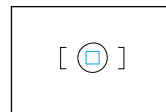
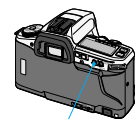
ワイドフォーカスフレーム内にあるセンサー

このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスフレームを採用しています。ワイドフォーカスフレーム内には4つのセンサーがあり被写体の位置に応じて、4つのセンサーのうちどれかが感知して、ピントを合わせます。

ワイドフォーカスフレーム

フレーム内の4つのセンサー

ピント位置を確認するには

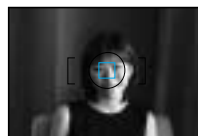
シャッターボタンを半押しします。

● ファインダー内のフォーカス表示が点灯します。

フォーカス表示

中央にピントを合わせる

フォーカスフレームの中央にある被写体でより厳密にピント合わせをしたい時は、画面中心のスポットフォーカスフレームでピントを合わせます。

スポットフォーカスフレーム

1

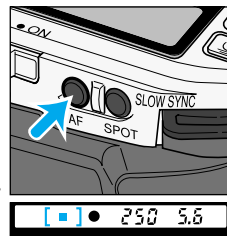
ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレームを合わせます。

スポットAFロックボタン

2

スポットAFロックボタンを押します。

● ファインダー内のフォーカス位置表示が[▪]になります。

● スポットフォーカスフレーム口の位置にあるものにピントが固定されます。そのまま構図を変えてもピント位置は変わりません。

3

スポットAFロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● スポットAFロックボタンから指を離すと、通常のフォーカスエリアに戻ります。

◆ **スポットAFロックボタンを押し続けると、同じピント位置で連続して撮影できます。**

◆ **スポットAFロックボタンを押すと、ピントと同時に露出(絞り値とシャッター速度)も固定されます。**

ねらいの部分にピントを合わせる

ピント位置を中央のセンサー、右のセンサー、左のセンサーから選びます。

こんな時に使えます！

カメラのピント合わせの判断が自分の意図と違う時

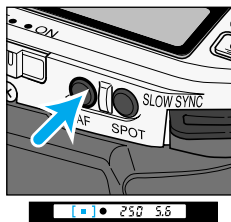
クローズアップ撮影でねらった所にピントを合わせたい時

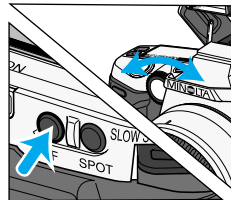
カメラを三脚に取り付けていて、ピント合わせの位置を変えたい時

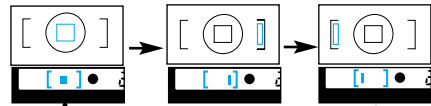
スポットAFロックボタン

ダイヤル

1 スポットAFロックボタンを押します。

● ファインダー内のフォーカス位置表示が[･]になります。

2 スポットAFロックボタンを押したままダイヤルを回して希望するピント位置を選択します。

● フォーカス位置表示が選択したセンサーを示します。

3 スポットAFロックボタンを押したままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

● スポットAFロックボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります。

◆ **AFレフレックス500mmF8およびAFパワーズーム35-80mmF4-5.6を使用しているときは、中央のスポットフォーカスフレームしか選択できません。**

◆ **被写体が動いているとき(ファインダー表示 ◉ が点灯しているとき)も、ピントを固定することができます。**

フォーカスフレームの切り替え

カスタム設定9でフォーカスフレームの切り替え方法を変えることができます。

1 ボタンを離すとワイドフォーカスフレームに戻る(初期設定)

スポットAFロックボタンを押している間、ピント合わせはワイドフォーカスフレームではなく中央のスポットフォーカスフレームで行います。また、スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すと左右および中央のピント位置を選択することもできます。ボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります。

2 ボタンを離しても選択したピント位置が維持される

スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すとワイドフォーカスフレームまたは左右および中央のピント位置を以下のサイクルで選択することができます。ボタンを押し続けなくても選択は維持されます。ワイドフォーカスフレームを選択時のピント合わせは、被写体の位置に応じて4つのセンサーでピント合わせを行います。

3 ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームの切り替え

スポットAFロックボタンを押すたびに、ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームが切り替わります。ボタンを押し続けなくても選択したフォーカスフレームは維持されます。

●ボディ表示部およびファインダー表示部に下記の表示がでます。(スポットAFロックボタンを押している間)

ワイドフォーカスフレーム

スポットフォーカスフレーム

AF A C S / MF ピントの合わせ方（フォーカスモード）

このカメラには、3種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

ピントの合わせ方（フォーカスモード)の種類

AF*…
オートフォーカス
(Auto Focus)の略です。

MF*…
マニュアルフォーカス
(Manual Focus)の略です。

AF A C S オートフォーカス(カメラが自動的にピントを合わせます)

A	C	S
AF*制御自動切り替え ●あらゆる被写体に有効です。	コンティニュアスAF ●動く被写体を撮影するのに便利です	ワンショットAF ●静止している被写体を撮影するのに適しています。

MF マニュアルフォーカス(MF*)

MF

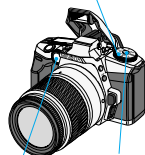
●撮影者が手動でピントを合わせます。

◆ これらのフォーカスモードはP/A/S/Mモードで使えます。
◆ 撮影シーンセレクターを使用時は、スポーツで撮影するとき以外はAF制御自動切り替えになります。スポーツで撮影するときはコンティニュアスAFになります。

A AF制御自動切り替え

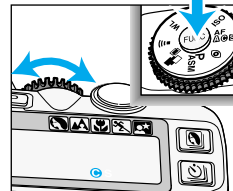
被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。被写体が動いている時は、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。被写体が静止しているときは、シャッターボタン半押しでピントを合わせ、最初にピントが合ったピント位置を固定(フォーカスロック)します。

1 ファンクションダイヤルをAFモード AF A C S の位置まで回します。

2 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、Aを選択します。

C コンティニュアスAF

シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。運動会、競馬、鉄道写真、カーレースなど動きのある被写体を撮影するときに効果を発揮します。

1 ファンクションダイヤルをAFモード AF A C S の位置まで回します。

2 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、Cを選択します。

◆ コンティニュアスAFの場合は、ピントが合った時の電子音は鳴りません。

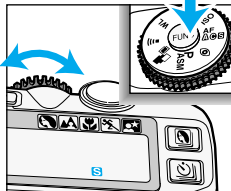
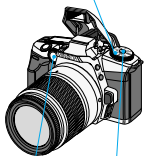
S ワンショットAF

シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定(フォーカスロック)します。建築物や美術品、静物、接写・複写など、静止している被写体の撮影に適しています。

1

ファンクションダイヤルをAFモード AF A C S の位置まで回します。

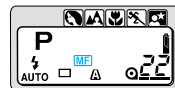
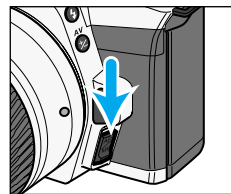
2

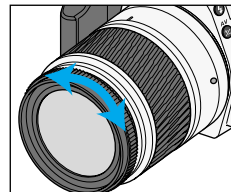
ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、S を選択します。

MF マニュアルフォーカス

オートフォーカスを使わずに、マニュアル(手動)で自由にピントを合わせることができます。

1

フォーカスモードレバーを当たり位置までしっかり押し下げます。

- ボディ表示部に MF と表示されます。
- 再度押し下げると、オートフォーカスに戻ります。

2

レンズのフォーカスリングを回し、被写体にピントを合わせます。

- ◆ スポットフォーカス内でピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。
- ◆ このカメラの測光方式(14分割ハニカムパターン測光)はオートフォーカスと連動しているため、Dレンズ以外のレンズをご使用の時はマニュアルフォーカスにすると、同じ場面でも測光値が異なることがあります。

bulb 長時間露光(バルブ撮影)

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間露光が必要な時に使用します。

Mモードにするには？

ファンクションダイヤルをPASMにした後、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にMを表示します(p.64)。

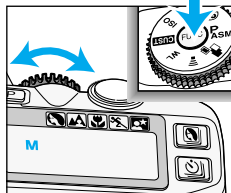
ダイヤル

露出補正ボタン

1

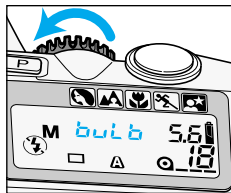
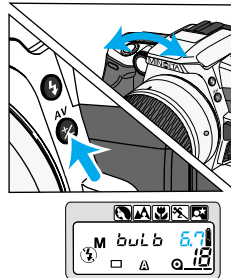
カメラを三脚などに取り付け固定します。

2

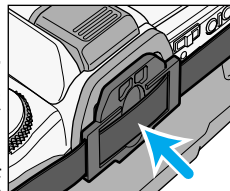
露出をMモードにします。

3

ダイヤルを左へ回し、bulbを選びます。

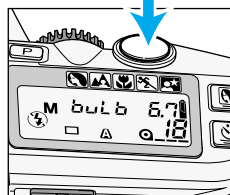
4

+/- (露出補正ボタン)を押しながらダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

アイピースキャップ…ファインダーから光が入りフィルムへの露光が変わってしまうのを防ぐために取り付けます。

5

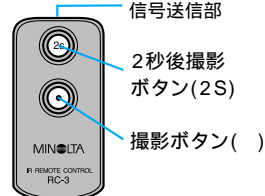
構図を決めて、ストラップに付いているアイピースキャップを取り付けます。

- ファインダーにキャップを当て、そのまま押し付けます。

6

必要な時間シャッターボタンを押し続けます。

- 長時間の露光は、シャッターボタンを押す振動によるカメラぶれが発生しやすくなります。

カメラぶれを防ぐには

別売りのIRリモコンRC-3またはリモートコードRC-1000L/S(p.117)を使うとカメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぎ、シャッターボタンを長時間押したまま固定することができます。

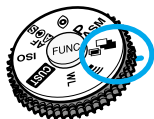
- **リモートコードRC-1000L/S(別売）を使う→p.117を参照してください。**
- **IRリモコンRC-3(別売）を使う**

- バルブ撮影の前にリモコンモードに設定します。(p.48)
- 撮影ボタン(●)を押すとシャッターが開きバルブ撮影を開始します。●ボタンをもう一度押すとシャッターが閉じバルブ撮影を終了します。
- 2秒後撮影ボタン(2s)を押すと2秒後にシャッターが開きバルブ撮影を開始します。

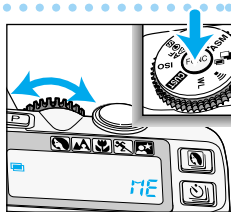
多重露光

1コマのフィルムに続けて何度も露光することができます。

1

ファンクションダイヤルを の位置まで回します。

2

ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部に を表示させます。

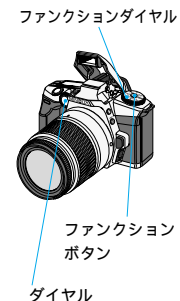
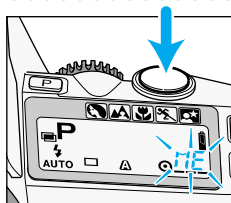
● フィルムカウンターは ME になります。

3

シャッターボタンを押し、1回目の撮影を行います。

● 1回目の露光が行われ、フィルムカウンターの ME が点滅します。フィルムは巻き上げられません。

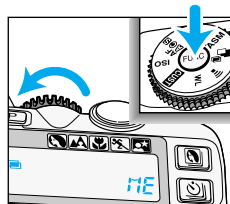
● 2回しか露光しない場合は、7に進んでください。

◆ 多重露光撮影では、背景を暗めにすることをおすすめします。また被写体の状況によっては、あらかじめアンダー側に露出補正しておく必要があります。

◆ 日付・時刻の写し込みは、最後に巻き上げた時の日付・時刻が写し込まれます。

合計3回以上の露光をする場合

4

ファンクションボタンを押しながらダイヤルを左方向に1クリック動かします。

● フィルムカウンターの ME の点滅が止まり、点灯になります。

5

シャッターボタンを押して撮影します。

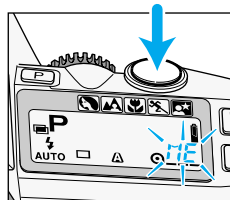
6

必要なだけ4、5の操作を繰り返します。

最後の露光をします

7

ME が点滅している状態でシャッターボタンを押して最後の露光をします。

● 撮影後は多重露光は解除されます。

多重露光撮影を解除するには

撮影途中で止めるには設定する時と同じ操作で と OFF をボディ表示部に表示させます。

● メインスイッチをOFFにしても多重露光撮影は解除されません。

◆ ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

フラッシュ撮影について

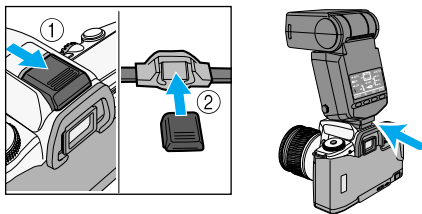
ここでは、内蔵フラッシュだけでなく、別売のプログラムフラッシュを含めた、フラッシュ撮影全般について説明します。

プログラムフラッシュ(別売)

内蔵フラッシュで光が届かない場合は、別売りのプログラムフラッシュを取り付けると、より遠くまでフラッシュ光が届く撮影ができます。

このカメラの内蔵フラッシュは、ガイドナンバーが12(ISO100)で、28mmレンズの画角をカバーします。

アクセサリーシューキャップを外してプログラムフラッシュを取り付けます。

● 外したアクセサリーシューキャップは、ストラップについているアイピースキャップに収納することができます。

◆ **フラッシュ使用時はシャッター速度は1/90秒またはそれ以下になります。このカメラではハイスピードシンクロが可能なプログラムフラッシュを使用しても1/90秒より高速のシャッター速度は設定できません。**

◆ **フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。5600HS(D)、5400HS、5400xiをお使いの場合は、フラッシュ背面に光の届く距離が表示されます。**

◆ **フラッシュ表示（ や など）は内蔵フラッシュと同じです。**

ADI調光の効果

Dレンズをカメラに装着しながら、Dフラッシュ(名称の最後に(D)の入っているもの)を使用している時は、ADI調光方式でフラッシュ調光します。この調光では、背景の状況や被写体の反射率に左右されにくく、より正確にフラッシュ調光できます。

**ADI*…
Advanced Distance Integration の略です。**

ADI調光による撮影

● 背景に反射率の高いものがあることを考慮してフラッシュを調光するので、より正確に色を再現します。

従来の調光による撮影

● 背景に反射率の高いものがあるので、全体に露出アンダーのフラッシュ調光となります。

Dレンズには以下のようなものがあります。

(2002年2月現在)

AFズーム28-80mm F3.5-5.6(D)
AFズーム24-105mm F3.5-4.5(D)
AFズーム75-300mm F4.5-5.6(D)
AFアポテレズーム100-300mm F4.5-5.6(D)
AF85mm F1.4G(D)
AFマクロ50mm F2.8(D)
AFマクロ100mm F2.8(D)

Dフラッシュには以下のようなものがあります。

(2002年2月現在)

5600HS(D)
3600HS(D)

レンズとフラッシュによるフラッシュ調光方式

フラッシュ調光方式は使用レンズ・使用フラッシュによって異なります。

	Dレンズ	その他のレンズ
5600HS(D) 3600HS(D)	ADI調光	DI調光
5400HS	DI調光	DI調光
その他の プログラムフラッシュ	TTL調光	TTL調光
内蔵フラッシュ	ADI調光	TTL調光

TTL調光 カメラが自動的に発光量を決めます。

DI調光 TTL調光を発展させたもので、撮影の直前にフラッシュを一度発光させ(プリ発光)、その反射光を14分割ハニカムパターン素子で測光して調光演算に反映させます。

ADI調光 TTL調光をさらに発展させたもので、DI調光に加えてフラッシュのガイドナンバーを制御も行います。被写体の反射率にほとんど影響されることなく、より正確に適正露出を得ることができます。

- ハイスピードシンクロはこのカメラでは使えません。ただし、ADI・DI調光が行われる時は(表中　)プリ発光を行うために、プログラムフラッシュのハイスピードシンクロをONに設定してください。
- Dレンズ使用時は、内蔵フラッシュでもADI調光(プリ発光なし)が行われます(表中　)。

フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合

- プリ発光が行われると正確な測定ができません。表中　で実際に撮影して測光する場合は、プログラムフラッシュのハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。フラッシュのテスト発光ボタンで測光、マニュアルフラッシュ発光する場合は問題ありません。

一部のフィルターやレンズ等を使用する場合

- クローズアップディフューザーCD-1000、露出倍数のかかるフィルター(ND等)、クローズアップレンズ、Dレンズでないマクロレンズのフォーカスレンジ切り替えノブ、一部のレンズに装備しているマクロ切り替えレバー使用時は、ADI・DI調光では適正露出を得ることができません。表中　の場合は、プログラムフラッシュのハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。表中　の場合は、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。
- ハイスピードシンクロ機能解除時(フラッシュ背面のHSSマークが消えている状態)、バウンス撮影時、およびオフカメラケーブルを使用時には、ADI・DI調光でなくTTL調光になります。
- ハイスピードシンクロの解除はフラッシュ側で行なうのでフラッシュの使用説明書をご覧ください。

CUST ●カスタム設定でADI・DI調光の解除をすることができます(p.112)。

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

スローシンクロ撮影の効果

通常のフラッシュ撮影

● 背景の明かりが写真に写らないことがあります。

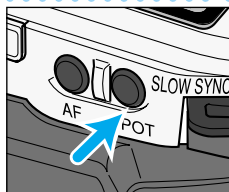
スローシンクロ撮影

● 背景の明かりも人物も写真に写し込みます。

スローシンクロ撮影するには

スポットAEロックボタン

AUTO か が点灯しているときに(フラッシュが発光するとき)に、スポットAEロックボタンを押しながら撮影します。

● ファインダー表示部に ■ が点灯します。

! ◆ Sモード、Mモードではスローシンクロ撮影はできません。

◆ 撮影シーンセレクターの「夜景ポートレート」と得られる効果は同じです(p.44)。
◆ シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
◆ フラッシュが発光しないときにスポットAEロックボタンを押しながら撮影すると、スポット測光になります(p.69)。

CUST ● スポットAEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように(押し続けなくてもいいように)カメラの設定を変えることもできます(p.111)。

WL ワイヤレスフラッシュ撮影

別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HS、5400xi、3500xiを使うと、ワイヤレスフラッシュ撮影ができるようになります。

ワイヤレスフラッシュ撮影の効果

カメラからプログラムフラッシュを取り外して被写体に向けて発光させることができるのでより自由なライティングをすることができます。

フラッシュをカメラに取り付けて撮影

● 顔の陰影がつぶれてしまい平面的な写真になります。

ワイヤレスフラッシュ撮影

● フラッシュを被写体の横から発光させて、陰影の付いた立体感のある写真になります。

一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならない場合があります。このカメラはコードがなくてもこのような撮影ができ、この撮影をワイヤレス(=コードのない）フラッシュ撮影といいます。
これはカメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用するからです。

◆ 露出はカメラが自動で適正露出になるように制御します。

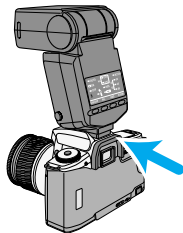
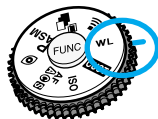
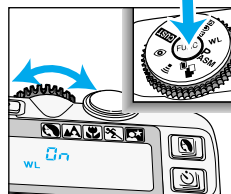
ワイヤレスフラッシュ撮影するには

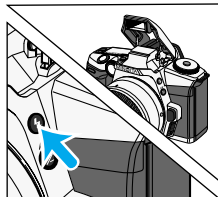
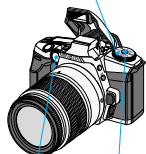
1

フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2

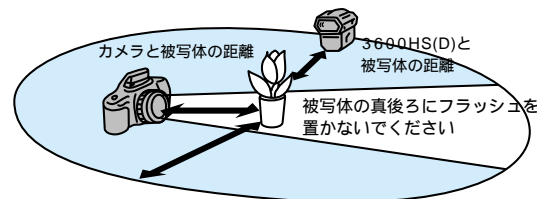
ファンクションダイヤルをWLの位置まで回します。

3

ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にWLと On を表示させます。

4

フラッシュをカメラから取り外し、(フラッシュモードボタン)を押してカメラの内蔵フラッシュを上げます。

5

下の図と表を参考にして、カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として対応のプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の青色の部分にフラッシュを設置してください。フラッシュと被写体の距離については、例として3600HS(D)の代表的な距離を記載しています。他のフラッシュについてはそれぞれの使用説明書をご覧ください。

被写体を中心とした半径5mの円内にカメラとフラッシュを設置してください

ISO100のフィルム使用時

絞り値	カメラと被写体の距離	フラッシュと被写体の距離
F2.8	1.4 - 5 m	1.4 - 5 m
F4	1 - 5 m	1 - 3.5 m
F5.6	1 - 5 m	1 - 2.5 m

ISO400のフィルム使用時

絞り値	カメラと被写体の距離	フラッシュと被写体の距離
F2.8	2.8 - 5 m	2.8 - 5 m
F4	2 - 5 m	2 - 5 m
F5.6	2 - 5 m	2 - 5 m

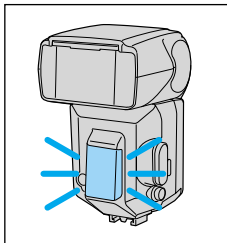
- ◆ 赤目軽減発光(p.38)の設定の操作をすると、ワイヤレスフラッシュは解除されます。
- ◆ ワイヤレスフラッシュの設定時は、赤目軽減発光はできません。赤目軽減発光をONに設定していても、ワイヤレスフラッシュ設定時は一時的に解除されます。

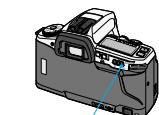
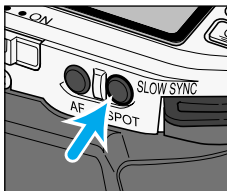
- ◆ シャッター速度は1/45秒またはそれ以下になります。
- ◆ ワイヤレス撮影で2台以上のフラッシュを発光させることもできます。Dフラッシュとそれ以外のフラッシュを同時に発光させる場合、Dフラッシュでないフラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にしてください。Dフラッシュを取り付けて設定すると、Dフラッシュでない方が発光しないことがあります。

次ページに続く

フラッシュ充電完了表示

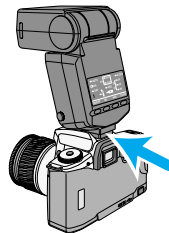
6 カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

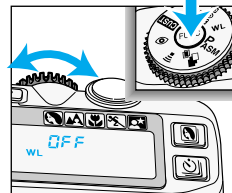
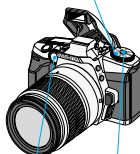
- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の ϟ が点灯すると充電完了です。
- プログラムフラッシュは背面の ϟ が点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

スポットAEロックボタン

7 カメラのスポットAEロックボタンを押し、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。

8 もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

◆ カスタム設定10で設定2にしているとき(スポットAEロックボタンから指を離しても、その機能が残るよう設定しているとき）は、設定番号を1に戻すことをおすすめします。設定2の状態ではファインダー内に ■ が点灯している間はスローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります(p.111)。

ワイヤレスフラッシュ撮影を解除するには

1 フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2 ファンクションダイヤルをWLの位置まで回します。

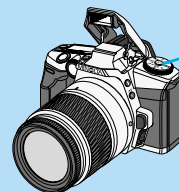
3 ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にWLとOFFを表示させます。

◆ カメラにフラッシュを取り付けた状態でカメラのメインスイッチをOFFにすると、ワイヤレスフラッシュは解除されます。
◆ カメラとフラッシュを離した状態でそれぞれのメインスイッチをOFFにすると、カメラのワイヤレス設定は解除されますが、フラッシュは解除されません。フラッシュだけでワイヤレス設定を解除するには、それぞれのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

P プログラムセットボタンの機能

プログラムセットボタンを押すと、カメラは最も基本的な状態(全自動)になります。

状態が変わるもの	ボタンを押した後の状態	参照ページ
露出モード	P(プログラム)モード	66
撮影シーンセレクター	解除(Pモード)	39~45
フラッシュ発光	自動発光(カスタム8-1に設定の場合)	35
ピント合わせ	オートフォーカス	82
セルフタイマー	(作動前／作動中に関係なく)解除	47
連続撮影	解除(1コマ撮影)	51
露出補正値	0.0	70
ブラケット(露出ずらし)	解除	74
多重露光	(2枚目が未撮影でも)解除	87
ワイヤレスフラッシュ設定	解除	95
フォーカスモード	AF制御自動切り換え	82
AFフレーム	ワイドフォーカスフレーム	78
リモコン	解除(1コマ撮影)	48

◆ 以下の設定はプログラムセットボタンを押しても変更されません。
- 内蔵フラッシュの赤目軽減発光
- 日付と時刻に関する設定
- フィルム感度
- カスタム設定
- 電子音設定

カスタム設定

CUST カスタム設定
●お客様のお好みに合わせてカメラの設定を変えることができます。

CUST カスタム設定

以下のようなカメラの設定を、お好みの状態に変更することができます。お買い上げ時には、設定はすべて1になっています。

カスタム設定項目

ピントが合っていなくてもシャッターを切りたいときは

カスタム1　オートフォーカス優先/レリーズ優先 p.106

1	オートフォーカス優先
2	レリーズ優先

最後のコマまで撮影しても自動的に巻き戻しがはじまらないようにするには

カスタム2　自動巻き戻し p.106

1	あり
2	なし

巻き戻した時にフィルムの先端を残しておきたいときは

カスタム3　巻き戻したフィルムの先端 p.107

1	残さない
2	残す

フィルム感度を変更したとき、その後も同じ感度のフィルムを続けて入れると、同じ変更が行われるようにしたいときは

カスタム4　フィルム感度変更記憶 p.107

1	なし
2	あり

フィルムが入っていないとシャッターが切れないようにしたいときは

カスタム5　フィルム未装填時のレリーズロック p.108

1	なし
2	あり

レンズのフォーカスホールドボタンを押すと、コンティニュアスAFになるようにしたいときは

カスタム6　フォーカスホールドボタンの機能 p.108

1	フォーカスホールド機能
2	コンティニュアスAF

フラッシュは発光させたいが、AF補助光は発光させたくないときは

カスタム7　内蔵フラッシュによるAF補助光 p.109

1	あり
2	なし

フラッシュの自動発光がわずらわしいとき、またはPA/PSシフトを使いたいときは

カスタム8　Pモード(撮影シーンセレクター)時のフラッシュ自動発光の有無 p.109

1	フラッシュ自動発光あり(PA/PSシフトなし)
2	フラッシュ自動発光なし(PAシフトあり)
3	フラッシュ自動発光なし(PSシフトあり)

フォーカスフレームの切り替え方を変えたいときは

カスタム9　スポットAFロックボタンの機能 p.110

1	ボタンを離すとワイドに戻る
2	ボタンを離しても選択したピント位置が維持
3	ボタンを押す度にスポットとワイドが切り替わる

スポットAEロックボタンの使い勝手を変えたいときは

カスタム10　スポットAEロックボタンの機能 p.111

1	ボタンを押している間機能する
2	ボタンを押す度に機能が切り替わる

ADI調光のプリ発光が撮影に適さないときは
(メーターやソフトライティングセット、ディフューザー、NDフィルター使用時)

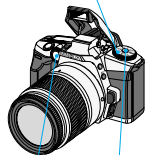
カスタム11　フラッシュ調光方式 p.112

1	ADI調光
2	TTL調光

カメラを天体望遠鏡などに取り付けるなど、ミノルタのAFレンズ以外で撮影したいときは

カスタム12　レンズ未装填時のレリーズロック機能 p.112

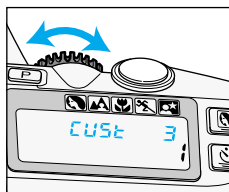
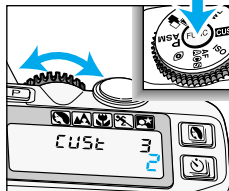
1	あり
2	なし

カスタム設定にするには

1

ファンクションダイヤルを CUST の位置まで回します。

2

ダイヤルを回し、変更したい項目(カスタム1〜カスタム12)を選びます。

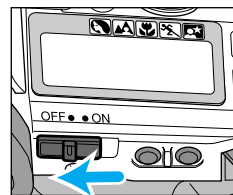
3

ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、設定を変更します。

◆ 設定した内容は、プログラムセットボタンを押してもカメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。

◆ ファンクションダイヤルの CUST 位置では、撮影することはできますが、撮影以外の操作はできません。

カスタム設定をすべて1の設定に戻すには

カスタム設定を変更していても、この操作ですべてのカスタム設定をお買い上げ時の設定に戻すことができます。

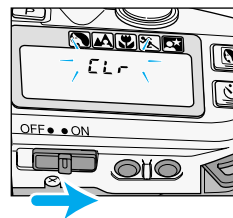
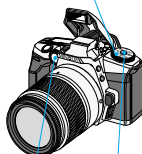
1

メインスイッチをOFFにします。

2

ファンクションダイヤルを CUST の位置まで回します。

3

ファンクションボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからONにします。

- すべてのカスタム設定が初期状態(設定番号1)に戻ります。
- ファンクションボタンを押している間 CLr の表示が点滅します。

カスタム1　オートフォーカス優先/レリーズ優先

1 オートフォーカス優先

ピントが合わなければシャッターは切れません。

2 レリーズ優先

ピントが合っていなくても、シャッターボタンを押したときにシャッターが切れます。

- ◆ ファインダー内の ● または ◉ が点灯してから(ピントが合ってから)撮影することをおすすめします。 ◉ の場合は最初にピントが合ったところでピントが固定され、シャッターが切れます。
- ◆ シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

カスタム2 自動巻き戻し

1 自動巻き戻しあり

最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

2 自動巻き戻しなし

最後のコマを撮影しても、巻き戻しは始まりません。巻き戻しを始めるときは、ボディ背面の途中巻き戻しボタンを押してください。

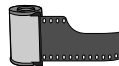
- ◆ 結婚式など、不用意に巻き戻しの音を立てたくないときに便利です。

カスタム3　巻き戻したフィルムの先端

1 フィルムの先端を残さない

巻き戻したフィルムは、すべてパトローネ内に巻き込まれています。

2 フィルムの先端を残す

巻き戻したフィルムの先端はすべてパトローネ内に巻き込まれず、一部外に出ています。

- ◆ 巻き戻しの途中でメインスイッチをOFFにしないでください。ONにすると巻き戻しが再開しますが、フィルムがすべて巻き込まれてしまうことがあります。

カスタム4 フィルム感度変更記憶

1 フィルム感度変更記憶なし

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合でも、その設定は該当するフィルム１本のみのものとして扱われます。

2 フィルム感度変更記憶あり

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合、次に同じ感度のフィルムを入れると、同様の変更が自動的になされます。(例：ISO　400のフィルムをISO　800に変更した場合、次にISO　400のフィルムを入れると、フィルム感度は自動的にISO 800になります。)

- ◆ リバーサルフィルムを頻繁に好みの感度に合わせて使われる方に便利です。
- ◆ フィルムを入れてからフィルム感度の設定・変更をしてください。
- ◆ いったん違う感度のフィルムを入れると、記録されたフィルム感度はリセットされます。

カスタム5　フィルム未装填時のレリーズロック

1 フィルム未装填時のレリーズロックなし

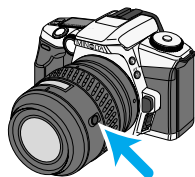
カメラにフィルムを入れなくても、シャッターを切ることができます。

2 フィルム未装填時のレリーズロックあり

フィルムが入ってなければシャッターは切れません。

- ◆ フィルムを入れ忘れたまま撮影するという失敗を防ぎます。
- ◆ フィルムを入れていなくても、裏ぶたを開けたままの状態だと、シャッターを切ることができます。
- ◆ シャッターボタンを押し込むと、絞り値表示部分(ボディ表示部およびファインダー表示部)に 0 が点滅してフィルムが未装填であることを警告表示します。

カスタム6　フォーカスホールドボタンの機能

レンズのフォーカスホールドボタンの機能を変更します(フォーカスホールドボタン付きのレンズのみ)。

1 フォーカスホールド

シャッターボタンとフォーカスホールドボタンを押している間、ピント位置が固定されます。

2 コンティニュアスAF

シャッターボタンとフォーカスホールドボタンを押している間、コンティニュアスAFとなり、常にピントを合わせ続けます。

- ◆ 瞬時に動いているものを撮影したい時に便利です。

カスタム7　内蔵フラッシュによるAF補助光

1 内蔵フラッシュによるAF補助光あり

必要時には自動的にAF補助光が発光します。

- ◆ 内蔵フラッシュを発光禁止 ⚡ にしているときは、AF補助光は発光しません。

2 内蔵フラッシュによるAF補助光なし

AF補助光は発光しません。

- ◆ フラッシュは発光させたいがAF補助光は発光させたくない場合に有効です。
- ◆ 内蔵フラッシュによるAF補助光なしに設定しても、プログラムフラッシュを使用した場合は、プログラムフラッシュの補助光は発光します。

カスタム8　Pモード時(撮影シーンセレクター含む)のフラッシュ自動発光の有無

1 フラッシュ自動発光あり(PA/Psシフトなし)

Pモードでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュは必要時に、自動的に上がり発光します。
別売のプログラムフラッシュ使用時は、電源をONにしていると必要時に自動発光します。

- ◆ フラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回して、強制発光または発光禁止を選ぶこともできます(p.37)。

2 フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPAシフト)

3 フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPsシフト)

Pモードでもフラッシュは自動発光しません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュモードボタンを押して内蔵フラッシュを上げてください。
別売のプログラムフラッシュ使用時は、フラッシュの電源をONにしてください。
フラッシュを発光させたくないときは、内蔵フラッシュを下げてください。プログラムフラッシュ使用時は、フラッシュの電源をOFFにしてください。

- ● 2に設定すると、Pモードで測光値が表示されているときに、ダイヤルを操作して一時的に絞り値を変更(PAシフト)することができます(p.66)。
- ● 3に設定すると、Pモードで測光値が表示されているときに、ダイヤルを操作して一時的にシャッター速度を変更(Psシフト)することができます(p.66)。

カスタム9 スポットAFロックボタンの機能

1 ボタンを離すとワイドフォーカスフレームに戻る(初期設定)

スポットAFロックボタンを押している間、ピント合わせはワイドフォーカスフレームではなく中央のスポットフォーカスフレームで行います。また、スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すと左右および中央のピント位置を選択することもできます。ボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります。

2 ボタンを離しても選択したピント位置が維持される

スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すとワイドフォーカスフレームまたは左右および中央のピント位置を以下のサイクルで選択することができます。ボタンを押し続けなくても選択は維持されます。ワイドフォーカスフレームを選択時のピント合わせは、被写体の位置に応じて4つのセンサーでピント合わせを行います。

3 ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームの切り替え

スポットAFロックボタンを押すたびに、ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームが切り替わります。ボタンを押し続けなくても選択したフォーカスフレームは維持されます。

●ボディ表示部およびファインダー表示部に下記の表示がでます。(スポットAFロックボタンを押している間)

ワイドフォーカスフレーム

スポットフォーカスフレーム

カスタム10 スポットAEロックボタンの機能

1 ボタンを押している間だけ機能する

スポットAEロックボタンを押している間のみ、スポット測光またはスローシンクロになります。ボタンを押しながらシャッターを切ってください。

2 一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除

スポットAEロックボタンを一度押して離すと、スポット測光またはスローシンクロになります。シャッターを切るときに、スポットAEロックボタンを押し続ける必要がありません。解除するときは、もう一度スポットAEロックボタンを押してください。

- **機能している間は、ファインダー内に ● が表示されます。**
- **プログラムセットボタンを押す、フラッシュ発光の有無を切り替える、メインスイッチをOFFにする等の操作でも解除されます。**

カスタム11 フラッシュ調光方式

このカメラには、フラッシュ調光としてADI調光方式が採用されていますが、撮影者の好みによって変更することができます。

● 内蔵フラッシュにも別売のプログラムフラッシュにも共通です。

1 ADI調光

フラッシュ発光時には、使用フラッシュ・レンズによっては、ADI調光またはDI調光を使って露出を決定します。

◆ **ADI調光・DI調光ができないフラッシュやレンズ使用時には、TTL調光となります。**

2 TTL調光

フラッシュ発光時にはTTLダイレクト調光方式を使って露出を決定します。

◆ **メーターやソフトライティングセット、ディフューザー、NDフィルターを使われる場合はこの設定にしてください。**

カスタム12 レンズ未装填時のレリーズロック機能

1 レンズ未装填時のレリーズロックあり

カメラにフィルムが入っている場合、レンズを取り付けていなければシャッターは切れません。

◆ **レンズが取り付けられていない状態で誤って撮影が行われるのを防ぎます。**
◆ **シャッターボタンを半押しすると絞り値表示部分に「– –」が点灯します。**

2 レンズ未装填時のレリーズロックなし

フィルムが入っていてレンズが取り付けられていなくても、シャッターを切ることができます。

◆ **カメラを天体望遠鏡に取り付ける場合など、ミノルタAFレンズ以外のレンズで撮影したいときにご使用ください。それ以外は誤操作防止のため、設定1でのご使用をおすすめします。**

付　録

アクセサリー

このカメラには、以下のようなアクセサリーを装着することができます。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ(Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど)はご使用になれません。

カメラとレンズをセットで購入された方へ

レンズの主な仕様

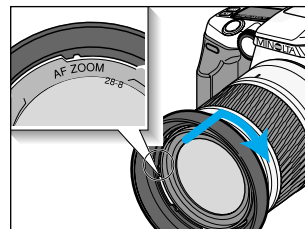
	AFズーム28-80mm F3.5-5.6 (D)	AFズーム75-300mm F4.5-5.6 (D)
レンズ(群ー枚)	7 - 8	10 - 13
画角	75°～30°	32°～8°10'
最近接撮影距離*	0.4 m	1.5 m
最大撮影倍率	0.24 X	0.25 X
最小絞り	F22 - 38	F32 - 38
フィルター径	55 mm	55 mm
補修用性能部品保有年限(生産終了後)	5年	5年
大きさ(最大径 X 長さ)	63 X 68 mm	71 X 122 mm
重量	190 g	460 g

*最近接撮影距離とは、フィルム面から被写体までの最短距離を示します。

◆ 本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、フードの使用をおすすめします。

フードとレンズ先端とを合わせ(位置合わせ必要)、時計方向に回して取り付けます。

◆ 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光がさえぎられることがありますので、レンズフードを外してください。
◆ 収納するときは逆向けに取り付けてください。

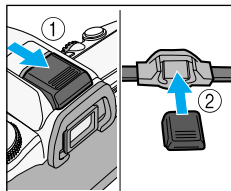
フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュやベクティスフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

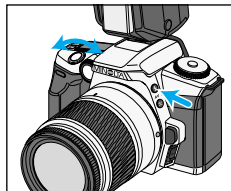
- プログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HS、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1、マクロリングフラッシュ1200、マクロツインフラッシュ2400は、そのままご使用になれます。
- AFシリーズ以前のフラッシュ(オートエレクトロフラッシュなど)や、ミノルタ以外の他社製のフラッシュは、このカメラでは使えません。
- プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。
  - ・カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。
  - ・フラッシュのAF補助光は発光しません。

フラッシュの取り付け方

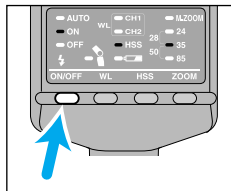
アクセサリーシューキャップを外してください。

● キャップはストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます。

カメラ側で操作する場合

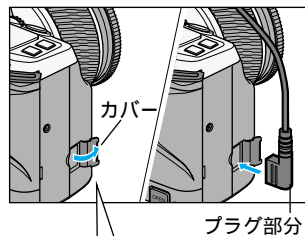
カメラのフラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回します。

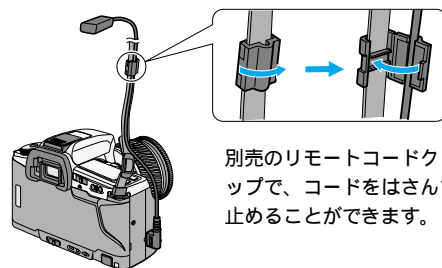
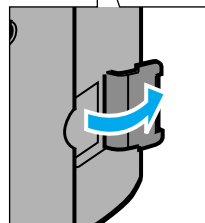
● 自動発光、強制発光、発光禁止のいずれか1つが選択できます。

フラッシュ側で操作する場合

フラッシュのON/OFFボタンを押します。

● シャッターボタンを半押しすると、カメラのボディ表示部に現在のモードが表示されます。

◆ フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
◆ フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。
◆ 赤目軽減発光はできません(内蔵フラッシュ以外ではそれほど目が赤く写らないため)。
◆ Pモードおよび撮影シーンセレクター選択時は、自動発光と発光禁止しか選択できませんので、フラッシュを必ず発光させたいとき(強制発光)はカメラ側で操作を行ってください。
◆ A／S／Mモード時は、内蔵フラッシュと同じく、強制発光または発光禁止しか選べません。

リモートコードRC-1000S/RC-1000Lについて(別売)

カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、シャッターボタンを長時間押したまま固定することもできます。

リモートレリーズターミナルのカバーを開けて、コードをターミナルに接続します。

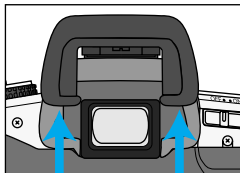
● コードを上向きにして接続してください。
● リモートコードを取り外すときは、コードのプラグ部分を持って外してください。リモートレリーズターミナルのカバーは引張らないでください。

別売のリモートコードクリップで、コードをはさんで止めることができます。

バッテリーパックBP−200

このカメラはバッテリーパックBP-200を装着すると、単3形電池の使用が可能になります。

使用できる電池は、単3形アルカリマンガン電池(4本)またはニッケル水素電池(4本)です。

アングルファインダー/マグニファイヤー

アングルファインダー、マグニファイヤーなど、ファインダー部分にアクセサリーを取り付ける場合は、アイピースカップを外してください。アイピースカップは両側を上に押し上げると外れます。

視度調整アタッチメント1000

ファインダー内の画像がはっきり見えないときは、視度調整アタッチメント1000を取り付けて視度を調整することができます。近視用4種類、遠視用5種類があります。

以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。

- ●ワイヤレスフラッシュリモコン
- ●コントロールグリップCG-1000
- ●データレシーバーDR-1000
- ●ワイヤレスコントローラーIR-1N
- ●各種縦位置コントロールグリップ
- ●データセーバーDS-100

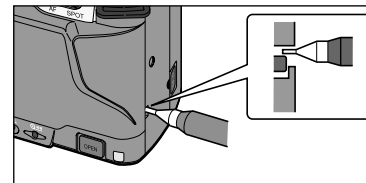
◆ この使用説明書は2002年3月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の当社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

あれっと思ったら？

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合わない。	ボディ表示部にMFが表示されていませんか。	フォーカスモードレバーを押し下げてオートフォーカスにしてください。	85
	オートフォーカスの苦手な被写体(p.34)を撮ろうとしていませんか。	フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行なってください。	33 85
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。(最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。)	
シャッターが切れない。	ピントは合っていましたか。	ピントが合わないとシャッターは切れません。(ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます。	106
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。	112
撮影以外の操作ができない。	ボディ表示部にCUSTが表示されていませんか。	ファンクションダイヤルの設定をCUST以外にしてください。	104

次ページに続く

症状	点検項目	処置	ページ
シャッターが切れない。	カスタム設定でレリーズロックありにしていませんか。	カスタム5の2に設定しているとフィルムがカメラに入っていないとシャッターは切れません。	108
暗いところでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する。	暗いところでもピントが合うようにするためのフラッシュ(AF補助光)です。	フラッシュを発光禁止にすると、AF補助光も発光しません。また、AF補助光だけを発光しないようにすることもできます(p.109)。	34
写真がぶれてしまう。	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。	フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。高感度フィルムを使うと手ぶれが少なくなります。望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると、手ぶれしやすくなります。	
フラッシュ撮影したものが全体的に暗くなる。	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのフラッシュをご使用のときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	36
フラッシュ撮影したものの下部が暗くなる。	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外してください。	115
	被写体に近づきすぎていませんか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、被写体から1m以上離れてください。	36

症状	処置	ページ
ボディ表示部にErrが表示される、または何も表示されない。	メインスイッチをいったんOFFにし、それからONにして下さい。それでも直らない場合、また何度も繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、カメラを販売店または最寄りの弊社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。	
裏ぶたが開かずフィルムが取り出せない。	このカメラは、セーフティロック機能を搭載しており、フィルムがはいっていると裏ぶたを開けることができません。故障時など、非常の場合には以下の方法で裏ぶたを開けることができます。 1.ファンクションダイヤルをISOの位置に合わせる。 2.ファンクションボタンとスポットAEロックボタンを押しながら、メインスイッチをOFF→ONにする。 ● 裏ぶたロックが解除されます。 3.暗室や暗箱の中にカメラを入れ、フィルムを取り出す。 この方法で開かない場合は、以下の手順に従ってください。 1.カメラのグリップ側にある小さな穴に、先の細いものを突っ込み、中のスイッチを押し下げる。 ● 裏ぶたロックが解除されます。 2.暗室や暗箱の中にカメラを入れ、フィルムを取り出す。	

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
●新品の電池を初めてお使いのとき、電池が保管されていた状況によっては、メインスイッチをONにすると が点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は－20℃～50℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他

●カメラは精密機械です。取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などを傷つけないようにしてください。
●カメラに強い衝撃を与えないでください。
●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをOFF位置にしてください。
●このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
●飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

●カメラボディやレンズの外側を拭くときは、柔らかいきれいな布を使います。砂が付いたときは、ブロアーで吹き飛ばします。こするとカメラを傷付けます。
●レンズ面を清掃するときは、ブロアーブラシでホコリ等を取り除きます。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭きます。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけるのは避けてください。
●シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりはオートフォーカスに影響を及ぼす恐れがあるため、ブロアーで吹き飛ばしてください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
●カメラ内部のミラーは、多少ほこりが付いていても露出には影響しません。
●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

●使用しないときは、レンズキャップやボディキャップを付けてください。
●長期間使用しないときは、電池を抜いてください。
●保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
●防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
●保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

事前に作動確認とテスト撮影をおすすめします。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

本製品の補修用部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

主な仕様

オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式 検出素子：CCDラインセンサー(中央クロス、3点4ライン) 検出範囲：EV-1～18(ISO100) 動体予測フォーカス制御/AF制御自動切り替え/コンティニュアスAF/ワンショットAF切り替え可能
AF補助光	内蔵フラッシュによる補助光　低輝度かつ低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約1～5m　プログラムフラッシュ装着時、フラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放測光(14分割ハニカムパターン測光、スポット測光) 測光素子：14分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル)、フラッシュ光調光用SPC(シリコンフォトセル) 測光範囲：14分割ハニカムパターン測光時 EV1～20 スポット測光時 EV4～20(ISO100 F1.4レンズ使用)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター シャッター速度：1/2000～30秒、バルブ(新品電池使用時約5時間)　フラッシュ同調最高速度：1/90秒
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：12(ISO100・m)　照射角：焦点距離28mm 充電時間：約4秒　Pモード／撮影シーンセレクター：自動ポップアップ、自動発光(強制発光、発光禁止可)　A／S／Mモード：フラッシュアップ時は強制発光、ダウン時は発光禁止　赤目軽減プリ発光選択可能／ワイヤレスフラッシュ信号光発光可能
ファインダー	ルーフミラー式一眼レフレックス方式　視野率：90%×90%　倍率：0.75倍(50mmレンズ、∞位置)　視度：－1ディオプトリー アイポイント：16mm(接眼枠より13mm)
フィルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り) 1コマ撮影/連続撮影最高1.7コマ/秒 連続撮影露出ブラケット/1コマ撮影露出ブラケット/多重露光/セルフタイマー(10秒) 自動巻き戻し/途中巻き戻し可能 巻き戻し時間：約8秒(24枚撮り)

フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定(ISO25～5000) 手動設定可能(ISO6～6400、1/3段)DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定　フラッシュ撮影時はISO25～1000のフィルムを推奨
撮影可能本数	試験条件：AFズーム28-80mm F3.5-5.6 (D) 24枚撮りフィルム・新品電池使用、1ヵ月に2本撮影 ●標準撮影時(1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む) 温度　20℃　－10℃ フラッシュ使用しない　約30本　約24本 フラッシュ50%使用　約14本　約11本 フラッシュ100%使用　約9本　約7本 ●カメラの操作回数が少ない場合(1コマごとにレンズを無限遠から2mまで1回駆動させ、シャッターボタン半押しで5秒保持後撮影、その他撮影準備を含む) 温度　20℃　－10℃ フラッシュ使用しない　約45本　約35本 フラッシュ50%使用　約18本　約14本 フラッシュ100%使用　約11本　約9本 ●カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。 ●電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをOFFにしてください。 ●36枚撮りフィルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。
大きさ	127(幅)×87(高さ)×60.5(奥行き)mm
質量(重さ)	315g(電池・アクセサリー別)

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や
に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステム

TEL　03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10:00～18:00（土・日・祝日定休）

0-43325-53009-8

9223-2164-61 NI-A204
Printed in China